



No.430

発行 社団法人名古屋工業会
(名古屋工業大学全学同窓会)

〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4

TEL・052-731-0780

FAX・052-732-5298

E-MAIL・gokiso@lime.ocn.ne.jp

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>

社団法人名古屋工業会会誌

ごきそ

2009 7-8 月号

【第43回通常総会報告】

理事長挨拶

会長挨拶

議事内容

【特別講演】

『お客様第一』の真の実現を目指して

【交流コーナー】

我がエンジニアとしての歩み

寒鰯を食する会 顛末記

【クラブ紹介】

今年こそ1部昇格!アメリカンフットボール部
剣道部とOB会

【情報ネットワーク】

支部報告・会員ニュース

【学内ニュース】

パズル



平成21年度 名古屋支部の“総会と見学会”

平成21年度名古屋支部の総会と見学会を次の通り開催致します。

会員の皆様（家族同伴可）はふるってご参加下さい。

記

1. 日 時：平成21年 9月26日（土） 8:45栄テレビ塔北 観光バス駐車場に集合
2. 行 程：栄（9:00）→ 伊勢 二見 旅荘 海の蝶*（総会・昼食）（11:35～13:40）→
伊勢神宮（内宮）・おかげ横丁**（各自自由散策）（14:10-16:10）→ 栄テレビ塔（18:20頃）
* 純和風の落ち着いたシティーホテルの洗練さを兼ね備えたホテル。総会・昼食後、ご入浴も可。
** 江戸から明治にかけての伊勢路の代表的な建築物が移築・再現され、この地方の魅力が凝縮されており、
三重の老舗の味、名産品、歴史、風習、人情まで、一度に体感していただけます。
3. 会 費：1名 6,000円（同伴家族も同じ。小学生は半額）
4. 申込先：次の単科会連絡幹事へ。締切は8月28日（金）、先着160名まで。

C E 会 牧野 繁保（C58）TEL 0567-37-0946
光鯨会 宇佐美智伯（Ah6）TEL 052-704-6137
巴 会 伊藤 克彦（M57）TEL 052-872-9354
電影会 三宅 正人（E60）TEL 090-3581-4472
双友会 森川 民雄（W45）TEL 052-751-6855
緑 会 緑 静男（D42）TEL 059-232-1829
名窯会 大門 啓志（Y46）TEL 052-735-5286

名晶会 山田 正明（K45）TEL 052-735-5307
計測会 大鑄 史男（F49）TEL 052-735-5393
経友会 仁科 健（B50）TEL 052-735-5396
情友会 松尾 啓志（J58）TEL 052-735-5446
翼 会 小鹿 良雄（K23）TEL 0561-72-4071
D F 会 渡辺 秋義（S17）TEL 052-701-5825

支部連絡先：

森川民雄 TEL052-751-6855、FAX052-751-6855
Email Tamio_Morikawa@jetto.go.jp
名古屋工業大学大学院ながれ領域 山本勝宏 TEL052-735-5277、FAX052-735-5277
Email yamamoto.katsuhiko@nitech.ac.jp

《 総 会 と 見 学 会 の 注 意 事 項 》

1. 当日および前日のキャンセルは、参加費の払い戻しができません。
2. ご担当者は、参加者名簿を、事前に支部連絡先まで必ず提出してください。
3. 開催に関するお問い合わせ、緊急の場合など、開催直前のご連絡は、以下の旅行会社までお願いします。

旅行社：名鉄観光バス(株)名古屋支店

担 当：東山 美雪

住 所：名古屋市中川区中京南通り 2-7

電 話：052-354-6909

FAX：052-363-0210

表紙写真説明

「バラと噴水」

鶴舞公園にあるバラ園で撮影しました。バラ園では色とりどりのバラが咲き誇り、多くの方が散策を楽しんでおられました。

撮影者 黒柳 奨 (EJ③)

第43回通常総会報告

社団法人名古屋工業会第43回通常総会が、平成21年5月23日（土）午後2時から松井信行学長、水谷尚美理事等のご臨席を賜り、会員115名が出席し中日パレスにおいて開催された。

総会に先立ち、20年度にご逝去された会員物故者のご冥福を祈り、出席者全員で1分間の黙祷を捧げた。

総会は、二杵常務理事の司会で篠田理事長の開会挨拶に始まり、松井学長の会長挨拶の後理事長の議長で議事を行い、提案された議案総てが異議なく承認された。

次に総会行事として、理事長から叙勲・褒章受賞者に記念品が、また母校定年退職職員に感謝状と記念品、そして会員で卒業満70・60・50周年の出席者に記念品がそれぞれ贈呈された。なお、欠席者で総会委任状の提出者には、後日記念品を送付することとした。

その後開催された特別講演会は、近藤佳孝参事の司会により、トヨタ自動車常務役員の横山裕行氏から「『お客様第一』の真の実現を目指して」という演題で講演をいただき、参加者に大変好評をいただいた。

会場を移して17時から懇親会が開催され、市橋副理事長の司会で河辺副理事長及び水谷名古屋工業大学理事から挨拶を頂き、木下副学長の乾杯により開会された。

杯を交わしながら、名工大ギターアンサンブル部による演奏の中で名刺交換等旧交を温めるうちに時間も過ぎ、小田副理事長の中締めの後恒例となった学歌「東海の邦のほまれ」を声高らかに歌い、和やかなうちに閉会とした。

平成21年5月23日

会員各位

社団法人 名古屋工業会
理 事 長 篠 田 陽 史

第43回通常総会報告及び決議ご通知

平成21年5月23日(土)開催の社団法人名古屋工業会総会において、議案全てが議決されましたのでご通知申し上げます。



総会風景



記念品贈呈 叙勲・褒章授与者 D41伊藤豪氏

第43回通常総会次第

1. **理事長挨拶** 篠田陽史 社団法人名古屋工業会理事長
2. **会長挨拶** 松井信行 国立大学法人名古屋工業大学学長
3. **議 事**

(決議事項)

- 第1号議案 平成20年度事業報告並びに収支決算報告
- 第2号議案 平成21年度事業計画並びに収支予算案
- 第3号議案 役員の交替
- 第4号議案 定款附属規程の一部改訂
- 第5号議案 その他

4. 行 事

イ 叙勲・褒章等受賞者へ記念品贈呈（敬称略）

伊藤 豪 D41 伊藤 剛 M16 光岡 毅 C35
加藤倫朗 Y40 岡田睦也 C34 東島良治 M35 青山哲也 E23

ロ 名古屋工業大学退職教職員へ感謝状と記念品贈呈（敬称略）

（退職教員） 伊藤基之 池田章一郎 平井洋武 齋藤勝裕 北 重公
 田中皓一 神藤 久 隅山兼治 佐伯義隆 越谷仁哉
（退職事務職員） 船渡英明 疋田 博 貝谷邦夫 荒木律世 友齊壽和子
 原 孝子 笠松芳子

ハ 名古屋工業大学卒業満70、60、50周年の会員へ記念品贈呈（敬称略）

（70年－昭和14年卒） － 29名

C 佐藤光正 始8名 A 山田 昇 始2名 M 黒田昌夫 始5名 E 菊池秀樹 始11名
W 安達正巳 D 田宮 進 始2名

（60年－昭和24年卒） － 40名

C 松田 衛 始8名 A 瀧 宏武 始3名 M 中埜達哉 始14名 E 田坂弘次郎 始7名
W 伊藤 智 始3名 D 布村啓一郎 始4名 Y 朽名重治

（50年－昭和34年卒） － 99名

C 田北元良 始16名 A 澁谷弘二 始15名 M 岩藤和夫 始17名 E 芦崎重也 始17名
W 杉浦潔彦 始12名 D 伊神治朗 始12名 Y 西田晴男 始6名 K 加藤陽一 始4名

ニ 特別講演

講師：横山裕行 氏 トヨタ自動車(株)常務役員
演題：『『お客様第一』の真の実現を目指して』

5. 懇親パーティー

理事長挨拶

社団法人名古屋工業会

理事長 篠田 陽史 (M33)

本日は松井学長に本会会長として、また御来賓として多数の先生方にも出席いただいております。

また会員の皆様には日本の全ての地域から挙って本総会にご参集いただき、本会に対する熱い思いを感じ、胸を熱くしております。

私どもの携わる産業界、官公学界とも百年に一度と言われる不況下で、必死にその回復に努力しておられること、誠に感謝に堪えません。

この情勢のなかで、本日、平成20年度の事業報告並びに収支決算報告および平成21年度の事業計画並びに収支予算案を審議いただく訳であり、皆様方からの叱咤激励を承りたく宜しくお願いいたします。

審議に先立ち、昨年理事長に就任し皆様に御挨拶の中で申し上げたことを、この一年もう一度振り返ってみたいと存じます。

私共執行部の最大のテーマが、母校の国立大学法人化による大きな変化と、昨年12月に施行された公益法人制度改革に伴う名古屋工業会の事業目的の再確認、組織の再編、そしてその活性化を私の任期であります平成20年度からの二年間のうちに方向付けを行う事であります。

これは平成20年度の事業計画へ最重要課題として取り上げており、平成21年度の事業計画でも、その最終年度としております。

本日の第一号議案に事業報告として述べておりますが、この機会にこの一年の経過を皆様に聞いていただき、多面的なご意見をお聞かせ頂きたいと存じます。

その機会を本年度の各支部総会に設けていただき私は出来る限り出席致したいと存じます。



この一年の活動で感じたことは、事業目的の再確認、組織の再編などの事業計画を進めて行く上で情報量があまりにも少ない事です。

主要な三つの例を挙げてみます。

公益法人制度改革に対して、私どもの法人をどうもっていくのか、まずその一つとして、他大学の同窓会の動向調査を継続して行っており、5年間の移行期間ということもあり、どの組織も様子見の状況で参考になる情報を得ることはもう少し先というのが現状であります。

二つ目が会員諸氏の生の話を聞くため、昨年度は新任でもあり、出来る限り各支部総会に出席し、昨年の総会で問題となった組織名称を含め、この問題について懇談の中でご意見を聞いてまいりました。沢山のご意見をお聞きすることが出来、私の判断及び方向付けの為の財産を

多く得ることが出来ました。

しかしまだまだ具体案に持って行くには整理が必要であり、今年度も出来る限り支部総会に出席しご意見を聞くことは先に述べた通りであります。

ただ具体案を持っていけないかぎりフィーリングの話になってしまい、また組織の承認を受けていない具体的な話を出すのはというジレンマもかかえております。

三つめは大学との問題です。大学トップとの懇談会を行い、又実務者の連絡会を設置する事が出来たことは事業報告に述べた通りであります。

懇談会では大学制度改革を4年経過してきた中で、大学として本会に望むものは何かをテーマとし話し合ってきました。卒業生の名簿管理の問題もその一つです。

大学制度改革を経る中で、卒業生こそ大学の

財産であるとの共通認識を我々と持つ事が出来、大学と一体となって全卒業生の把握をする必要性を認め合うことが出来ましたが、費用と方法に大きな問題を抱えています。

又実務者連絡会の中で、本会に対するある程度具体的なたたき台も出てきており、少しずつ進んで来ていますが、いま最大の問題は学長の任期が平成21年度までであり、再任は規定上無いと言うことで、平成22年度より新学長、新執行部体制となります。そのため一部は22年度への持ち越しとなります。

以上三つの活動例を挙げましたが、言える事は難航していると言うことであり、21年度は大変な努力を必要とします。

この情勢を踏まえ平成21年度の事業計画を立案いたしました。

ここに会員の皆さま方の絶大なご支援をお願いし、挨拶といたします。



記念品贈呈 卒業満70周年 C14 小川達哉氏



記念品贈呈 卒業満60周年 C24 安藤實氏

会 長 挨 拶

名古屋工業大学 学長
名古屋工業会 会長

松井 信行 (E41)

皆さんこんにちは。この通常総会の席をお借りして簡単に大学の状況についてお話し、挨拶にかえさせていただきます。

名古屋工業会の会員諸兄におかれましては、常日頃名工大の諸活動に対して深いご理解とご支援を頂き誠にありがとうございます。まずは厚く御礼申し上げます。

また前牛込理事長、現篠田理事長をヘッドにしました名古屋工業会が、名工大の日常的な活動をより支援できる団体に変身しようと努力をさせていただいておりますことも御礼申し上げます。

さて私どもの大学の現況ですが、平成16年に法人組織になりましてから平成22年の3月31日をもって第Ⅰ期、6年間の中期目標期間を終えますので、それに先立ちまして4年間の大学の運営や活動についての評価を受けました。評価の結果は第Ⅱ期の大学の財務や人員配置に反映されます。小学校の通信簿と同じ様に1～5で5段階の評価を受けますが、1是最悪で5が最高となります。これは他の大学と比較しての評価ではなく、あくまでも各大学が中期目標期間中にあげた目標に対する達成度がどうであったかという制度です。従いまして真ん中の3が各大学の設定した目標に対して順調に進んだという評価になります。

我が大学は教育面、研究面、国際交流、その他について4ないし3の評価を頂いております。なかんずく業務、運営については最高の5を頂きました。基本的な大学としての活動や財務、人事がうまくいっている証だと思います。

私がもう一つ気になっていた事に名工大のブランド力の向上があります。残りの任期10ヶ月の間にベースを創っておきたいと思います。



入学試験制度が変わってセンター試験という制度になり、偏差値が我が物顔に横行する状況になって以来、名工大は高校生の間における評判が、かつてに比べ右肩上がりに向上しております。これは世間一般の工学離れとも関係があるのですが、若い人達にもっと深い関心を持ってもらいたいし、我が大学に入っていたいた学生諸君には、大学の長い歴史と実社会に輩出してきた偉大なる先輩の業績について十分知ってほしいのです。

一つの「カイゼン」として、数年前から戸荻先生にもお願いして入学式、卒業式には合唱団の現団員とOBの協力を得て学歌を歌ってもらっています。今年の入学式では歌唱指導もしました。

今年の1月にブランド力アップ作戦なるものを執行部に提案しました。その一つは先輩諸氏の中で特に偉業を成した方々に学校へ来て頂

き、学生とご父兄に、最近は特にご父兄が大事なのですが、ご講演を頂くのです。その最初のスタートとして春の入学式には私の1年先輩になる、帝人会長である長島徹さんに学生時代から現在に至るまでの出来事、またその間にお考えになった事、今の新入生やその父兄に望む事についてお話頂きました。学務担当の副学長にもお願いして、この様な行事が一過性でなくレギュラーなカリキュラムに入っていくように計画をたてて頂いております。

それからもう1つ御礼を込めて御報告したい事は、100周年で皆様にご協力を頂いて集まりました15億円余の内、10億円を大学基金として積み立てさせて頂いた事です。今後は基金として運用し、大学の基本的な活動や学生に対する支援をしていきたいと考えています。

5月2日の中日新聞の第1面をご覧になった方はご存知だと思いますが、優れた学生の尻を叩いてより元気にする制度となるよう、この基金を運用していきたいと思います。入学試験の各学科でトップの成績をとった入学生に30万円の賞金を出したり、海外協定校に留学を希望した学生には年間100万円を支援

します。そういった形で意欲のある学生、実力のある学生を支援する制度を考えています。今まで我が国にあまりなかった、頑張っている人には頑張った分だけ報いられる制度になるよう、この基金を活用してまいります。

このような事が出来たのも、100周年記念を前後して名古屋工業会会員の先輩諸氏からご支援を頂いたおかげでございます。本当にありがとうございました。

最後に先ほど篠田理事長からお話がありましたが、私の任期は来年の3月31日で終わります。6年間学長として務めました、これを機に大学の仕事からは足を洗いたいと考えています。皆さんの前でこうしてご挨拶をするのも最後になり、この秋には次の新学長が決まります。その後、来年の春までの4ヶ月間は次期執行部体制の人事を含めて次の学長に考えて頂く事になります。その辺りから私も気が少し楽になるように思います。

総会のスタート時にさようならの挨拶をするのは少し変かもしれませんが、この5年半いろいろご支援頂き、その事に御礼申し上げるとともに、今後も本学の発展にご協力をお願いする事で私の挨拶とさせていただきます。



記念品贈呈 卒業満50周年 W34 杉浦潔彦氏



懇親パーティー

平成 20 年度事業報告

1. 組織改革に向けた活動

(1) 公益法人制度改革への対応

名古屋工業会の今後のあり方を検討するため、他大学の同窓会の動向調査を行うと共に、大学のトップと懇談会を行った。また組織改革委員会を開催し、新法人制度について検討を行った。

2. 大学支援事業

(1) 連携強化事業

教育支援として、第二部の授業科目「職業指導」を担当する非常勤講師（実務型教員）の派遣を継続して実施した。継続 11 名、新規 3 名の併せて 14 名を大学が選任し、後期から授業を実施した。

(2) 資金援助事業

① 教育・研究助成

- イ 名古屋工業大学教官に研究助成金を交付し、母校における教育研究の振興を図った。
- ロ 名古屋工業大学附属図書館の地域連携コーナーに対する支援を行った。
- ハ 名古屋工業大学研究協力会に理事長が副会長として活動を支援した。
- ニ 理事長が名古屋工業大学経営協議会及び学長選考会議、基金運営委員会の委員として、また常務理事が基金運営委員会の委員として、母校発展のために卒業生の立場で積極的に提言を行った。
- ホ 名古屋工業大学が行う各種事業のための支援を行った。

② 学生支援

イ 名古屋工業会賞の贈呈

平成 21 年 3 月 23 日举行的名古屋工業大学学位記授与式において、学長より推薦のあった成績優秀な卒業生 22 名に対し、篠田理事長より工業会賞として表彰状並びに記念の時計を贈呈した。

(第一部)

生命物質工学科	鏡味克之	石井陽祐	荻野敬広
環境材料工学科	辻野鮎美	野村幸生	
機械工学科	平瀬裕司	宮本裕貴	磯野美帆
電気電子工学科	大原由紀子	関崎真也	一木 智
情報工学科	林 貴宣	鹿住恭介	奥 隆史
建築・デザイン学科	平井健一	三ツ矢裕貴	
都市社会工学科	濱口知季	福永和馬	

(第二部)

物質工学科	青木真一	電気情報工学科	渡辺 新
機械工学科	富永和良	社会開発工学科	今瀬達也

ロ 奨学金給付

平成 20 年 12 月 17 日名古屋工業会館において奨学金の授与式を行い、篠田理事長より激励の挨拶の後日本人学生 10 名、外国人留学生 5 名の計 15 名に奨学金を授与した。

ハ 名古屋工業大学留学生後援会への援助を行った。

ニ 課外活動奨励金を 5 団体に、また、工大祭には本部及び名古屋支部より協賛金を贈呈した。

ホ フォーミュラプロジェクトへの支援を行った。

ヘ 平成 21 年 3 月卒業の正会員（終身会員）に祝意を表し、記念品を贈った。

ト 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた就職支援を 5 単科会に行った。

(3) 教職員支援事業

イ 名古屋工業大学定年退職教職員に、第 42 回通常総会にて感謝状と記念品を贈呈した。

(定年退職教員 11 名)

杉江 紘	杉本光毅	大出義仁	堀 靖郎	和久昭正	田中靖敏
小野徹郎	山本 勝	大里 齊	高瀬清久	清水基夫	

(定年退職事務職員 8 名)

荒川和巳	村井憲生	杉山 司	中木速夫	朝日司郎	渡辺芳三
鬼頭誠次	家田淳子				

3. 名古屋工業会の更なる充実のための事業

(1) 会員増強活動

イ OB 未入会者への勧誘

- 1) 各支部において、支部総会等の行事の機会にそれぞれの方法で会員増強に努めた。
- 2) 各単科会が実施する卒業生と学生との懇談会において、未入会者の入会勧誘を行った。
- 3) 企業の新規役員昇格者に対し祝電を送付するとともに入会勧誘を行った。
- 4) 本年度新規入会者
終身会員 62 名、 年度会員 42 名、 合計 104 名

ロ 新入学生への勧誘

- 1) 大学の入学手続き書類に「入会案内」を同封し、さらに手続き会場に出向き出前勧誘を行った。
- 2) 未加入の新入生の保護者宛に、再度入会案内を送付し入会勧誘を行った。
- 3) 生活協同組合とタイアップした新入生の全入化策について、関係者と協議中
- 4) 本年度新規入会者
終身会員 261 名、 学生会員 14 名、 合計 275 名

ハ 在校生の勧誘

- 1) 在学生の保護者に対して、大学からの情報誌の送付に同調して、会誌「ごきそ」及び入会勧誘文書を同封し入会勧誘を行った。
- 2) 各単科会が実施する卒業生と学生との懇談会において、入会勧誘を行った。
- 3) 本年度新規入会者
終身会員 9 名、 学生会員 8 名、 合計 17 名

ニ 名古屋工業会の魅力向上と会員のメリットを付加する目的で、「名古屋工業会カード」の創設の検討中。

ホ 平成 20 年度末、OB 会員入会率； 21.8%
対象者 52,817 名、 会員 11,498 名
(終身会員 7,931 名、 年度会員 3,567 名)

(2) 活性化活動

① 会員交流および広報活動

- イ 会誌「ごきそ」を隔月刊行し、会員並びに賛助会員に送付した。更に、3・4 月号は新入生に、5・6 月号は在校生の父兄に送付し、名古屋工業会の広報に資した。
- ロ ホームページの内容を随時更新し、内容の充実と即時性を高めると共に、メールマガジンを適時配信した。更にホームページを補完するため、各支部・単科会のホームページとのリンクを図った。
- ハ 工業会が保有する卒業生名簿の整備を行った。

② 支部活動

- イ 全国各支部行事に対し理事長等が積極的に参加する等本部より協賛を行った。(支部総会等の実績を後掲)
- ロ 支部長会議を開催し、全国各支部より支部長が出席して支部活動の現況と活性化について検討した。

③ 単科会との連携

- イ 工業会と単科会との関係および今後の単科会のあり方等について検討するため、単科会との懇談会を実施した。
- ロ 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた学生の就職支援を 5 単科会に行った。

④ 講演会の開催

- イ 通常総会後に特別学術講演会を開催した。
日時：5 月 24 日 (土) 15：40～16：40
会場：中日パレス
講師：西川尚武 氏 元東洋紡績(株) 前(株)豊田自動織機製作所 現西川技術士事務所

⑤ 記念品の贈呈

- イ 平成19年度の叙位叙勲者並びに国家褒章受賞者に対し、第42回通常総会にて記念品を贈呈した。

鈴木一孝	瑞宝中綬章	松浦省三	瑞宝中綬章
石川金治 (C33)	瑞宝小綬章	倉森 治 (A35)	旭日小綬章
中島 一 (A22)	旭日小綬章	野口 健 (C35)	瑞宝双光章

- ロ 卒業満70,60,50周年に該当する会員に、第42回通常総会にて記念品を贈呈した。

70年一昭和13年卒25名、60年一昭和23年卒159名、50年一昭和33年卒108名

平成20年度収支決算書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日)

1.収入の部(一般会計)

(単位:円)

勘定科目		20年度予算額	決算額	増減	
大科目	小科目	(A)	(B)	(A)-(B)	
財産運用収入		6,500,000	4,941,208	1,558,792	注1
	財産利子収入	6,500,000	4,941,208	1,558,792	
事業収入		3,710,000	4,170,658	△460,658	
	会誌広告料	750,000	791,000	△41,000	
	オフィス賃貸特別会計より繰入	1,920,000	1,951,340	△31,340	
	駐車場賃貸特別会計より繰入	1,040,000	1,038,318	1,682	
	寄付金収入	0	390,000	△390,000	
入会金収入		300,000	302,000	△2,000	
	学生会員	100,000	92,000	8,000	
	正会員	200,000	210,000	△10,000	
会費収入		44,891,000	45,326,000	△435,000	
	年度会費収入(学)	100,000	105,000	△5,000	
	年度会費収入(正)	9,000,000	7,920,000	1,080,000	注2
	過年度会費収入	300,000	1,975,000	△1,675,000	注3
	前受年度会費収入	300,000	245,000	55,000	
	終身会費収入	34,941,000	34,861,000	80,000	
	賛助会費収入	250,000	220,000	30,000	
雑収入		100,000	21,975	78,025	
	雑収入	100,000	21,975	78,025	
積立預金取崩収入		9,640,000	9,956,728	△316,728	
	調査研究助成積立預金取崩収入	5,840,000	5,049,155	790,845	
	将来計画準備預金取崩収入	1,500,000	3,268,973	△1,768,973	注4
	育英奨学積立預金取崩収入	1,500,000	1,500,000	0	
	減価償却積立預金取崩収入	800,000	138,600	661,400	
前期繰越収支差額	前期繰越収支差額	213,556	213,556	0	
		213,556	213,556	0	
収入合計		65,354,556	64,932,125	422,431	

注1、利率の下落

注3、督促による収入増

注2、会費納入者の減

注4、工業会館建物耐震調査分

終身会費引当預金

項目	金額	備考
平成20年度終身会費引当預金	187,109,604	平成5年度～平成19年度 終身会費前受金
平成20年度終身会費入金額	20,040,000	終身会員入会者数 332名
平成20年度使用可能終身会費	34,861,000	終身会費使用ルールによる
平成21年度終身会費引当預金	172,288,604	平成6年度～平成20年度 終身会費前受金

2.支出の部

(単位:円)

勘 定 科 目		20年度予算額 (A)	決算額 (B)	増 減 (A) - (B)
大科目	小科目			
事 業 費		41,252,000	39,861,970	1,390,030
	(1) 連携強化事業 第二部教育支援等経費	1,600,000	775,030	824,970
	(2) 資金援助経費 教育研究助成経費	2,300,000	2,420,000	△ 120,000
	学生支援経費	3,540,000	3,354,125	185,875
	教職員支援経費	150,000	193,473	△ 43,473
	(3) 会員増強活動経費	2,250,000	2,144,693	105,307
	(4) 広報活動経費	9,940,000	10,069,447	△ 129,447
	(5) 支部活動経費	10,150,000	10,018,950	131,050
	(6) 講演会経費	80,000	57,055	22,945
	(7) 会員慶弔経費	1,200,000	1,118,993	81,007
	(8) 人件費	7,275,000	7,136,408	138,592
	(9) 光熱水料費	600,000	638,452	△ 38,452
	(10) 事業諸経費	2,167,000	1,935,344	231,656
管 理 費		17,972,000	19,207,406	△ 1,235,406
	(1) 総会経費	2,650,000	2,593,982	56,018
	(2) 人件費	7,275,000	7,136,408	138,592
	(3) 光熱水料費	600,000	638,452	△ 38,452
	(4) 管理諸経費	2,167,000	1,935,344	231,656
	(5) 租税公課	2,200,000	1,978,800	221,200
	(6) 建物等維持管理費	3,080,000	4,924,420	△ 1,844,420
固定資産取得支出		800,000	138,600	661,400
	(1) 建物改装	300,000	138,600	161,400
	(2) 備品購入費	500,000	0	500,000
積立預金繰入支出		5,200,000	4,313,047	886,953
	(1) 退職給与積立預金繰入支出	1,000,000	1,000,000	0
	(2) 減価償却積立預金繰入支出	3,200,000	3,162,047	37,953
	(3) 入会金積立預金繰入支出	1,000,000	151,000	849,000
次期繰越収支差額		130,000	1,411,102	△ 1,281,102
	(1) 次期繰越収支差額	130,000	1,411,102	△ 1,281,102
支 出 合 計		65,354,000	64,932,125	421,875

注1 実務型教員の追加募集をしなかった為等

注2 会館の耐震診断分

注3 入会金の2分の1を基本財産として積立

正味財産増減計算の部

平成21年3月31日

(1)増加の部

(単位:円)

	勘 定 科 目	決 算 額	備 考
資 産 の 増 加	当 期 繰 越 収 支 差 額	1,411,102	
	建 物 附 属 設 備 増 加 額	138,600	
	減 価 償 却 積 立 預 金 増 加 額	3,162,047	
	入 会 積 立 預 金 増 加 額	151,000	
	退 職 給 与 引 当 預 金 増 加 額	1,000,000	
負 債 の 減 少	終 身 会 費 引 当 金 減 少 額	14,821,000	
増 加 額 合 計		20,683,749	

	勘 定 科 目	決 算 額	備 考
資 産 の 減 少	前 期 繰 越 収 支 差 額	213,556	
	建 物 償 却 費	1,847,351	
	建 物 附 属 設 備 償 却 費	249,160	
	什 器 備 品 償 却 費	1,065,536	
	什 器 備 品 評 価 損	882,540	
	減 価 償 却 積 立 預 金 減 少 額	138,600	
	調 査 研 究 助 成 積 立 預 金 減 少 額	5,049,155	
	終 身 会 費 引 当 預 金 減 少 額	14,821,000	
	育 英 奨 学 積 立 預 金 減 少 額	1,500,000	
負 債 の 増 加	将 来 計 画 準 備 預 金 減 少 額	3,268,973	
	退 職 給 与 引 当 金 増 加 額	1,000,000	
減 少 額 合 計		30,035,871	
当 期 正 味 財 産 増 減 額		△ 9,352,122	
前 期 繰 越 正 味 財 産 額		222,679,749	
期 末 正 味 財 産 合 計 額		213,327,627	

貸 借 対 照 表

平成21年3月31日

1. 資産の部		(単位;円)	
勘 定 科 目		金 額	
大 科 目	小 科 目		
流 動 資 産			
	現 金 預 金	1,727,542	
流 動 資 産 合 計 (A)			1,727,542
固 定 資 産 基 本 財 産	土 地	26,150,730	
	建 物	39,204,910	
	建 物 附 属 設 備	1,627,458	
	什 器 備 品	3,872,802	
	減 価 償 却 積 立 預 金	53,002,183	
	入 会 金 積 立 預 金	22,801,000	
基 本 財 産 合 計 (B)			146,659,083
そ の 他 固 定 資 産	調 査 研 究 助 成 積 立 預 金	54,676,415	
	育 英 奨 学 積 立 預 金	6,000,000	
	将 来 計 画 準 備 預 金	4,231,027	
	退 職 給 与 引 当 預 金	1,650,000	
	終 身 会 費 引 当 預 金	172,288,604	
	預 入 保 証 金	350,000	
そ の 他 の 固 定 資 産 合 計 (C)			239,196,046
固 定 資 産 合 計 (D) = (B) + (C)			385,855,129
資 産 合 計 (E) = (A) + (D)			387,582,671

2. 負債の部			
勘 定 科 目		金 額	
大 科 目	小 科 目		
流 動 負 債		0	0
固 定 負 債	賃 貸 契 約 保 証 金	316,440	
	退 職 給 与 引 当 金	1,650,000	
	終 身 会 費 引 当 金	172,288,604	
固 定 負 債 合 計 (G)			174,255,044
負 債 合 計 (H)			174,255,044

3. 正味財産の部			
基 本 金			146,659,083
当 期 正 味 財 産 減 少 額			9,352,122
正 味 財 産 (I)			213,327,627
負債及び正味財産合計 (J) = (H) + (I)			387,582,671

財 産 目 録

平成21年3月31日

(単位:円)

(資産の部)		
I. 流 動 資 産		1,727,542
1. 現金預金	1,727,452	
流 動 資 産 合 計	1,727,452	
II. 固 定 資 産		70,855,900
1. 有形固定資産		
(1) 土地 会館用地393.78 m ²	26,150,730	
(2) 建物 会館鉄筋4階建延665.09 m ²	39,204,910	
(3) 建物附属設備	1,627,458	
(4) 什器備品	3,872,802	
有 形 固 定 資 産 合 計	70,855,900	
2. その他の固定資産		314,999,229
(1) 普通預金(三菱東京UFJ銀行他)	9,955,509	
(2) 定期預金(三菱東京UFJ銀行)	1,000,000	
(3) 振替預金(ゆうちょ銀行)	5,604,300	
(4) 金銭信託(みずほ信託銀行他)	20,189,420	
(5) 国 債 (大和証券)	94,000,000	
(6) 公社債 (野村証券他)	183,900,000	
(7) 保証金 (八重洲倶楽部、セコム)	350,000	
その他の固定資産合計	314,999,229	
資 産 合 計		387,582,671

監 査 報 告 書

平成21年4月9日

社団法人 名古屋工業会

理事長 篠 田 陽 史 殿

監 事

清水益文 

監 事

伊藤要蔵 

社団法人名古屋工業会平成20年度事業報告並びに会計収支決算を詳細に監査したところ、諸帳簿・諸証票書類とも正確にて適正であると認めました。

以上を報告致します。

平成 21 年度事業計画

公益法人制度改革も昨年の 12 月 1 日に法が施行され、今後 5 年間の移行期間内に対応が必要となっている。昨年は勉強期間であり、大学当局を含む既存各団体の意向聴取、課題など基本的な調査を実施してきたが、従来の会員相互交流支援や情報交換といった同窓会機能に加え、大学・学生支援など大学との連携を一層強化する必要があることも明らかになってきた。

そのための組織・体制の具体案作りが当面の課題であり、大学当局も含めて方向性を定めるための検討を促進する。

1. 組織改革に向けた活動

(1) 公益法人制度改革への対応

公益法人法（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律）への対応を機会に、全学同窓会としての設置形態や組織（本部組織、支部組織、単科会組織等）の拡充整備に関する検討を行なうため、大学との連絡会を設置して具体案の作成を行ない、今年度中にその方向性をまとめる

(2) 財政基盤の充実

新組織体制下での継続的な寄付金受け皿の整備ならびに卒業生の周年寄付金制度などと共に、新入学生の全員入会を目指した活動を精力的に推進し、財政基盤の充実を図る

2. 大学支援事業

(1) 連携強化事業

- イ 第二部教職科目（職業指導）への実務型教員（非常勤講師）派遣継続を行なうと共に、第一部の授業への拡大についても検討する
- ロ 在学生及び教職員を対象にした、OB の企業トップによる講演会を開催すると共に、新入学生及びその父兄を対象とした OB 講演会の開催も含め、OB による講演会の定例化を図る
- ハ 就職ガイダンス、インターンシップ事前指導、留学生支援などの学生支援策の具体化
- ニ 附属研究機関・センターにおける研究支援推進員派遣の検討
- ホ 研究協力会との連携による産学連携支援
- ヘ 会員の有する知識や経験を、中部経済産業局・各地商工会議所等が展開する各種施策に活用する方策の検討（会員相互支援、地域貢献）
- ト 上記支援策の基礎となる人材データベースの構築のため、卒業生名簿の整備について大学と共に検討する

(2) 資金援助事業

① 教育・研究助成

- イ 名古屋工業大学教官に対する研究助成
- ロ 名古屋工業大学の教育に対する支援
- ハ 名古屋工業大学が行なう各種事業への支援

② 学生支援

- イ 名古屋工業大学学位記授与式に際し、優秀な卒業生に「名古屋工業会賞」を贈呈
- ロ 名古屋工業大学学生への奨学金給付
- ハ 名古屋工業大学留学生後援会の援助
- ニ 課外活動奨励金の給付
- ホ 「工大祭」の支援
- ヘ 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた就職支援

(3) 教職員支援事業

- イ 名古屋工業大学定年退職教職員への感謝状と記念品贈呈

3. 名古屋工業会の更なる充実のための事業

(1) 会員増強活動

- イ 大学及び大学生生活協同組合の協力の下で、新入生全員入会を目指した入会勧誘と、在学生の入会勧誘
- ロ 卒業生の未入会者を対象とした各種会合を通じての入会勧誘
- ハ 各支部開催行事の機会における支部単位での積極的な入会勧誘
- ニ 在校生に対し、名古屋工業会の認知度を高めるとともに、卒業時における学生会員から終身会員または正会員への変更の推進
- ホ 単科会が主催する卒業生と学生の懇談会における未加入者の入会勧誘
- ヘ 単科会会員のうち、名古屋工業会未加入者に対する積極的な入会勧誘
- ト 名古屋工業会の魅力向上と会員のメリットを付加する目的で、「名古屋工業会カード」の創設及び生涯メールアドレス付与の検討

(2)活性化活動

①会員交流および広報活動

- イ 会誌「ごきそ」を隔月に刊行し、会員に対する大学情報の提供と会員間交流情報の媒体として、より魅力ある会誌の刊行
- ロ ホームページの内容を充実し、利便性を高める。さらにホームページを補完するため、各支部・単科会のホームページとのリンクを図ると共に、メールマガジンを適時配信する

②支部活動

- イ 会員の人的ネットワーク形成のため、各支部毎の事業充実を図り、会員のコミュニケーションを活性化

③単科会との連携

- イ 工業会と単科会との関係および今後の単科会のあり方等について検討するため、単科会との懇談会を実施
- ロ 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を共催
- ハ 卒業生名簿の共有化について検討する

④講演会の開催

- イ 通常総会後に特別学術講演会を開催

⑤記念品の贈呈

- イ 平成20年度の叙位叙勲者および国家褒章受賞者に記念品贈呈
- ロ 卒業満70、60、50周年に該当する会員に記念品贈呈

以 上

平成21年度収支予算書

(平成21年4月1日から平成22年3月31日)

1. 収入の部 (一般会計)

(単位：千円)

勘 定 科 目		予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増 減 (A?B)	
大 科 目	小 科 目				
財産運用収入		3,000	6,500	△ 3,500	
	財産利子収入	3,000	6,500	△ 3,500	注1
事業収入		4,724	3,710	1,014	
	会誌広告料	750	750	0	
	オフィス賃貸特別会計より繰入	2,940	1,920	1,020	注2
	駐車場賃貸特別会計より繰入	1,034	1,040	△ 6	
入会金収入		300	300	0	
	学生会員	100	100	0	
	正会員	200	200	0	
会費収入		43,386	44,891	△ 1,505	
	年度会費収入 (学)	100	100	0	
	年度会費収入 (正)	8,000	9,000	△ 1,000	注3
	過年度会費収入	500	300	200	
	前受年度会費収入	250	300	△ 50	
	終身会費収入	34,316	34,941	△ 625	
	賛助会費収入	220	250	△ 30	
雑収入		30	100	△ 70	
	雑収入	30	100	△ 70	
積立預金取崩収入		10,300	9,640	660	
	調査研究助成積立預金取崩収入	5,600	5,840	△ 240	
	将来計画準備預金取崩収入	2,200	1,500	700	
	育英奨学積立預金取崩収入	1,500	1,500	0	
	減価償却積立預金取崩収入	1,000	800	200	
前期繰越収支差額		1,411	213	1,198	
	前期繰越収支差額	1,411	213	1,198	
収 入 合 計		63,151	65,354	△ 2,203	

※ 平成21年度借入限度額及び債務負担額について該当事項はありません

注1、金利下落

注2、賃借人の増加

注3、前年度実績考慮

2.支出の部

(単位:千円)

勘 定 科 目		予算額	前年度予算額	増 減
大科目	小科目	(A)	(B)	(A) - (B)
事 業 費		39,942	41,252	△ 1,310
	(1) 連携強化事業			
	第二部教育支援等経費	1,200	1,600	△ 400
	(2) 資金援助経費			
	教育研究助成経費	2,400	2,300	100
	学生支援経費	3,350	3,540	△ 190
	教職員支援経費	150	150	0
	(3) 会員増強活動経費	2,000	2,250	△ 250
	(4) 広報活動経費	10,040	9,940	100
	(5) 支部活動経費	10,150	10,150	0
	(6) 講演会経費	80	80	0
	(7) 会員慶弔経費	800	1,200	△ 400
	(8) 人件費	7,100	7,275	△ 175
	(9) 光熱水料費	640	600	40
	(10) 事業諸経費	2,032	2,167	△ 135
管 理 費		17,702	17,972	△ 270
	(1) 制度改革調査費等経費	200	0	200
	(2) 総会経費	2,650	2,650	0
	(3) 人件費	7,100	7,275	△ 175
	(4) 光熱水料費	640	600	40
	(5) 管理諸経費	2,032	2,167	△ 135
	(6) 租税公課	2,000	2,200	△ 200
	(7) 建物等維持管理費	3,080	3,080	0
固定資産取得支出		1,000	800	200
	(1) 建物改装	800	300	500
	(2) 備品購入費	200	500	△ 300
積立預金繰入支出		4,450	5,200	△ 750
	(1) 退職給与積立預金繰入支出	1,500	1,000	500
	(2) 減価償却積立預金繰入支出	2,800	3,200	△ 400
	(3) 入会金積立預金繰入支出	150	1,000	△ 850
次期繰越収支差額		57	130	△ 73
	(1) 次期繰越収支差額	57	130	△ 73
支 出 合 計		63,151	65,354	△ 2,203

平成21年度 役員名簿

理事 (25)

篠田 陽史 M33	市橋 洋志 W40
小田 征一郎 E36	河辺 彰 K40
二杵 幸夫 K39	木下 隆利 W50
水谷 章夫 A51	北村 正 Es48
長野 靖尚 M41	道家 清正 Y30
森川 民雄 W45	伊藤 豪 D41
生嶋 一丈 K39	三井 富雄 A39
加藤 作次 C40	川村 信之 E53
藤井 賢一 D36	張田 吉昭 M43
坂井 利充 C42	長江 正純 W42
木越 正司 C44	森下 洋司 M51
○ 島ノ上正憲 M29	玉田 欽也 W32
楠田 修三 A50	

監事 (2)

清水 益文 F44	伊藤 要蔵 B42
-----------	-----------

参事 (23)

単科会参事	学内	学外
C	藤田 素弘 C60	鈴木 博和 C46
A	麓 和善 A54	水谷 友彦 A42
M	中村 隆 M50	尾針 幸夫 M45
E	竹下 隆晴 E57	安藤 幹人 E57
W	樋口 真弘 W61	沼田 長之 W40
D	森 秀樹 D52	水谷 榮一 D40
Y	大門 啓志 Y46	高見 昭雄 Y42
K	西野 洋一 K53	近藤 佳孝 K44
F	種村 眞幸 F56	小鍛冶 正 F46
B	仁科 健 B50	川田 武司 B47
支部参事	(東京)	飯田 秀郎 W33
	(東京)	三好 修 A40
	(三河)	石川 敏行 K44

支部長 (20)

北海道	三田村好矩 F41
東北	栗村 滋雄 C29
東京	小田 征一郎 E36
甲信越	茅野 正澄 K55
静岡	山之上 誠 C49
三河	森下 洋司 M51
名古屋	市橋 洋志 W40
尾張	玉田 欽也 W32
岐阜	○ 島ノ上正憲 M29
北陸	山岸憲一郎 K33
三重	大橋 進 A41
大阪	河辺 彰 K40
兵庫	楠田 修三 A50
岡山	○ 宮? 勝秀 A45
広島	菱川 躬行 E34
山陰	糸賀 輝徳 C51
香川	蓮井 康 M40
徳島	後藤田啓造 M38
高知	山? 健司 A54
九州	喜多村治雄 M40

評議員 (98)

北海道 (1)	田上 利明 C47	
東北 (3)	高山 和喜 M38	松尾 泰幸 Y35
	中村 善吉 K35	
東京 (16)	原田 龍次 C45	工藤 利昭 A61
	小松 信春 A49	北野 良幸 M46
	松浦 明人 M47	加藤 勝英 E39
	平手 孝士 Es42	山田 吉英 Es46
	岡本 利郎 D44	三山 雅敏 D38
	倉島 俊二 W38	日沖 昭 Y40
	須賀 久明 K43	嶋 昇平 F47
	北野 豊 K20	濱野 勝弘 B42

甲信越 (3) 野沢 利雄 C44 塚平 正廣 K23

樋口 順 C48
静岡 (2) 藤井義麿郎 Es49 榑原 学 F48
三河 (7) 中島 和彦 Y58 吉木 満 W56
藤田 聡 D60 松坂 勝広 D61
西 保幸 M51 渋谷 誠 F63
山本 有彦 F63

名古屋 (28) 須山 明廣 C47 兵頭 洋 C51
三上 基樹 C51 内藤 克己 A43
荒金 謙一 A45 伊藤 基之 M43
大西 一 M49 伊藤 克彦 M57
江川 孝志 Es55 菊間 信良 Es57
杉本 昌稔 E50 岩波 保則 E51
重野 拓郎 E62 長谷川隆男 W38
高木 幸治 W5 緑 静男 D42
村瀬 由明 D53 山田 哲正 Y47
本多 沢雄 Y6 野々山秀夫 K45
林 昭二 K46 多賀 康訓 F43
市川 洋 F56 小澤 幸男 B43
鷺見 克典 B63 松尾 啓志 J58
犬塚 信博 J62 小鹿 良雄 K23
井上 富夫 D28 丹羽 信男 W38
服部 重夫 Y43

岐阜 (3) 堤 喜治 M45 龜山義比古 A43

○ 篠田 洋 D36

北陸 (3) 馬場 清和 M44 森 悦次 K46

吉岡 正盛 B58

三重 (3) 中村 尚武 C44 永田 朝光 E47

北川 貴志 C50

大阪 (12) 坂尾 健司 F55 齊藤 忠夫 D31

重松 紀雄 K40 片岡 宏治 Y40

布施順之助 B42 剣持 政之 A49

三木 敏裕 E48 西川 宣昭 W40

山本 泰三 M39 牧 紀久夫 W38

田中 耕嗣 G52 小西日出幸 C55

兵庫 (3) 前田多津夫 A38 青野 信尹 C44

吉川 隆夫 M43

岡山 (2) 虫明 正博 K59 ○ 中村 浩已 A54

広島 (1) 関戸 康則 M49

山陰 (2) 糸賀 輝穂 C51 森下 博 C56

香川 (1) 細谷 芳照 C53

徳島 (1) 中井 弘明 M43

高知 (1) 山内 健 C53

九州 (3) 今村 賢三 A38 喜多村治雄 M40

安達 高春 A46

相談役 (7) 井上丈太郎 E13 森 眞佐雄 K20

伊藤 正延 D30 ○ 金原 淑郎 M25

○ 藤原 俊朗 K31 ○ 市川日出男 D32

○ 牛込 進 Y33

参与 (13) 馬場 富雄 A29 日比 貞雄 W35

早原 悦朗 E37 佐藤 太英 E32

大橋 照男 K36 浅井 利夫 E31

友松 英爾 D30 守山茂一郎 E32

宇佐美貞夫 F40 秋山 敏郎 C33

北村 健治 B40 石川 金治 C33

横田 章宏 D33

顧問 (3) 山田 幾穂 D25 河本 毅一 C32

戸苅 吉孝 F39

○ : 新役員



特別講演

TOKUBETSU KOUEN

『お客様第一』の真の実現を目指して ～ トヨタの品質保証 ～

トヨタ自動車(株) 常務役員 横山 裕行 (K49)

1. はじめに

現在、トヨタ車は世界約170ヶ国で販売されており、約7000万台のトヨタ車を世界中のお客様に使って頂いています。トヨタ車はその信頼性・耐久性を高く評価され世界中のお客様に選ばれてきました。特に使用環境が過酷な地域でのシェアを見ると良くわかります。

例えば、欧州全体では厳しい競争でトヨタのシェアは5%程度ですが、北欧では30%を占めています。理由はシンプルで寒い冬でも故障しない、寒い国でよく起こる不具合が起き難い、それをお客様に評価して頂いているからです。暑い地域でも同様です。中近東でのシェアは30%を越えています。先人たちが過酷な地域で販売・サービスに一生懸命取り組んだ成果もありますが、灼熱の砂漠や悪路でも故障せず快適に走れる高品質な商品を提供できたことが、高いシェアを維持している理由です。

トヨタ車の高品質イメージ、やはりその基本は耐久性と信頼性、そして造りの良さです。愚直に築き上げたワークマンシップが我々の得意とするところで、それがお客様に評価されることを忘れてはいけません。これからも他車より一歩抜きん出た耐久性・信頼性の車を継続的に提供することが重要なのです。

現在、北米発の金融危機は急激な経済の低迷を招き、自動車業界にも暗い影を落としています。



はじめに

お客様第一とは？

品質はだれのもの？

- ・1万件に1件程度の不具合発生率だから仕方ない……
- ・社内基準に適合しているのに、なぜクレームになるのか？

会社側中心の考え方

品質の良し悪しはお客様が決めるもの

お客様、当事者の立場で物事の判断が不可欠

- ・お客様の期待度: 常に変化、バラつき
- ・『品質の確保』≠ 社内基準を満足すること
- ・生産性、コストは会社の都合



す。一方で、これからは環境対応や燃費の向上など技術開発の熾烈な争いにも打ち勝っていかねばなりません。

こういう困難な時こそ、原点に戻り、お客様第一の精神で、グローバルトヨタの一人ひとりが心と力を合わせて、体質強化を進め、乗り切っていく必要があると思っています。

2. 品質のトヨタウェイ（歴史と考え方）

「お客様第一」「品質第一」の考え方は創業者より長く受け継がれているものです。トヨタ自動車の創業者の豊田喜一郎は「消費者の要望を直接把握し、これを商品に反映する」「製品の品質と業務の運営を監査し、これを改善する」と唱えていました。これは「お客様第一」「品質第一」「現地現物」という脈々と生きているフィロソフィーであり、製品の品質だけでなく、仕事の質も高めるという概念が既にあったということです。

その後順調に生産台数を伸ばしてきたのですが、反面品質問題も目立つようになり50年代後半には北米輸出でつまずき、それを契機にTQCを導入し65年にはデミング賞も受賞しました。この時に確立された品質保証のしくみが現在の基盤になっている訳です。

振り返ってみますと、この時代の状況は現在とそのスケールでこそ差はあれ、本質的には大変よく似ています。「品質競争の激化」「新人・期間工の増加」「横の連携の悪さ」「管理者の力不足と未熟練」等の課題が当時挙げられ、その打開策として、全部門に関連する「品質保証」という仕事が部門間で機能的に連携できるように全社を横断的に管理する体制、いわゆる「機能別管理体制」が生まれました。品質は品質保

証部門や品質管理部だけが保証するのではなく、トヨタに働く全員が品質保証の主役、という仕組みで、これが「品質保証規則」という形で徹底されてきました。

3. 品質の現状と取り巻く環境の変化

21世紀に入り、生産台数が更に飛躍的に増え、また、海外生産のウエイトも高まる中で新たな課題が続々と出て来ましたし、お客様や社会から見た品質を取り巻く環境も大きく変化して来しました。

例えば、企業経営の社会的責任も益々大きくなって来ました。他製品の例を見るまでも無く品質で失敗を犯すと企業存続すら危うくなります。企業は利益だけを視野において行動してはいけない、お客様の求める高品質な商品をまじめに造る、それを通じて社会に貢献する、という志が大切だと思います。

また、他社の追従も急になり、品質優位性を維持し、更に水をあけることは至難の技となって来ました。お客様の要求レベルもどんどん厳しくなって来ています。

一方、会社の中にも品質確保を難しくする要因が増えてきています。開発期間が短くなって来ていますし、新規プロジェクトも増加、新技術もどんどん採用されて来ています。開発部門

においても、仕入先さんやO Sの人達といかに上手く仕事をしていくか、その昔、喜一郎が一人でやっていた事を何千人という人達で、いかに意思疎通良くやっていくかということへの挑戦です。

仕事のやり方も変わっています。図面も今はCADやCATIAで書く時代で昔なら図面の汚れ具合で悩んだ箇所がわかって検図できたことが、今では難しくなっています。「現地現物」という機会も気をつけないと減ってしまいます。

品質のトヨタウェイ

創業者の精神＝『トヨタ品質の原点』

佐吉翁（豊田綱領等より）

1. 研究と創造に心をいたし、常に時流に先んずべし。
2. 十分な商品テストを行うにあらざれば、真価を世に問うべからず。



喜一郎 監査改良の精神

1. 消費者の要望を直接把握し、これを商品に反映する。
2. 製品の品質と業務の運営を監査し、これを改善する。



4. トヨタの品質保証（最近の取り組み）

このような背景から、トヨタで働く一人ひとりが「お客様第一」の視点に立って仕事をする状態を再構築すべく、社長をリーダーとしたC F（Customer First）活動を05年4月から開始しました。現状を打破し、更に飛躍するために「人材育成」と「しくみ改革」を活動の二本柱とし、いつのまにか、できなくなってしまうところを再度原点、基本に立ち返り、人づくり、仕事のしくみ作りに取り組んで来ました。当初は、とにかくお客様に迷惑をかけないための流出防止に力点を置いていましたが、活動が進むにつれ、弱点の克服、“品質は工程で造り込む”という基本に立ち戻った自工程完結活動により、未然防止を図る方向へ進化させて来ました。

この「自工程完結活動」はトヨタ生産方式（TPS）の考え方に基づくものです。TPSの「自動化」の考え方は「悪いモノは造らない」「悪いモノを造ったらすぐ止める」というまさしく本質的品質を追求したものであり、これを製造部門だけに留まらず、スタッフ業務にも「仕事の質を高める」ことを狙いに広めていこうという活動です。例えば設計の仕事で考えてみると、設計し、試作して、試験するという仕事のやり方では評価してから初めて結果の良し悪しがわかるという事になります。評価がNGだと当然仕事のやり直しが起こり、大きなロスになります。理想的なのは設計部門での各仕事のプロセス毎に仕事の正常・異常の有無がその場でわかる状態を作り上げ、図面の完成度を向上させることで

トヨタの品質保証 —CF活動

社長メッセージ

お客様へ、一人ひとりが心を込めたモノづくり！！
（お客様迷惑“ゼロ”の夢の実現に向かって）



明るく
楽しく
元氣良く

- ・品質はトヨタの生命線です。
- ・品質は工程でつくり込む
⇒ 一人ひとりが品質の主役です。
- ・お客様迷惑“ゼロ”を目指して
全員が一丸になって、知恵を出し
工夫を凝らし、手足を動かし、汗を出して
果敢に地道に徹底的に実践しよう。

渡辺捷昭

トヨタの品質保証 —自工程完結活動

自工程完結 ～原点となる考え方～

トヨタ生産方式（TPS） 品質の良いモノを、安く、タイムリーに
お客様へお届けする。

- ◆ ジャスト・イン・タイム
無駄を出さない
⇒ 必要なモノを、必要な時に、必要なだけ提供
- ◆ 自動化
悪いモノを造らない（本質的品質追求）
⇒ 設備や作業に異常があったらラインを止める



トヨタの品質保証 —(4)自工程完結活動

スタッフにおける工程とは

■ 工程
□ 要素作業
→ 連鎖

【製造】

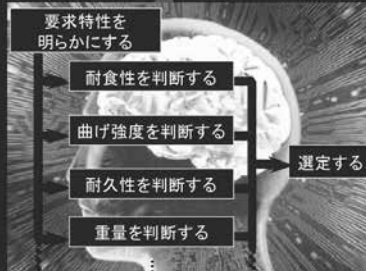
部品受入 → ボルト締付 → 特性検査



一つひとつの『作業点・加工点』の連鎖

【スタッフ】

構造決定 → 材料選定 → 色彩決定



一つひとつの『意志決定』の連鎖

す。そうすれば、仕事のやり直し・手戻りが無くなり、自分の仕事に自信が持てるようになり、モチベーションも高くなるはずです。

自工程完結を進める上での3つの要素は「要素作業」「良品条件」「判断基準」です。「要素作業」とは、細分化された仕事のプロセスです。例えば、設計の仕事の工程では、構造を決め、材料を決め、色を決める等々の意思決定の連鎖であり、材料決定の工程を考えると、耐食性、強度、耐久性といった様々な切口から材料を決めていくという非常に多くの「要素作業」から成り立っている訳です。すなわち要素作業に分解していくと、そこには必ず1つの意思決定のプロセスが存在するはずです。

2つめは「良品条件」、良い仕事をするための条件です。先ほどの材料選定のプロセスで意思決定を下す場合、必ずそこには根拠・妥当性があるはずで、その決定を自信を持って正しく行うために具備しておく要件が良品条件です。

製造現場では造り易い構造、悪いモノが造れないといった「構造要件」、工程能力がある、不良品を造ったらラインが止まるといった「設備要件」、4Mの視点で正常な維持・管理ができる「製造要件」がこの3要素でしょうし、スタッフ部門では「情報」「道具」「能力」になるのではないのでしょうか。



これに3つめの仕事の良否をその場で判定できる「判断基準」を持つことで、自工程完結がはじめて完成することになります。

市場では様々な故障や不具合が発生していますが、一つ一つの事例を掘り下げていくと必ず、この自工程完結の3要素のどこかに完璧ではなかったことが見つかるはずで、これに対し対策を打っていくことが確実な再発防止につながっていくと思います。

5. 最後に

「お客様第一」ということを否定する人は誰もいないはずです。しかし、我々メーカーにいと直接お客様からお叱りや苦言を頂く機会が少ないこともあり、生産性やコスト、時には上司といった別のものを優先してしまいがちです。お客様の品質に対する期待は益々高まってきています。不具合や対応の悪さでお客様の期待を裏切り、トヨタファンを失うことは何とか避けたいものです。

世界中でトヨタファンを増やして来た過去の成果にあぐらをかくことなく、全員が当事者意識を持って「お客様第一」のこころを持ち続け、行動していくように心掛けて行きたいと思います。



交流コーナー

我がエンジニアとしての歩み

墨谷 真蔵 (E40)

1. 始めて訪れた名古屋の印象

初めて名工大を訪問したとき、構内のテニスコートで学生達がテニスをしている風景に大変羨ましく感じた。私の出身地は石川県加賀市ですが、11月から3月頃までは裏日本特有の気候で通学時には風雨雪に非常に悩まされていた。それだけに冬季でも晴天続きの名古屋の気候に大変魅力を感じた。また小学6年生頃自分の特性から将来はエンジニアとしての活動に憧れていた事もあり、名工大電気工学科に入学できたことは、裏日本での生活から離れられることも重なり、大変良かった。

2. 就職

名工大在学中は馬術部員として活動していた。2年生のときに馬術部として初めて自馬を持ったため、自馬の委託先「森林公園」内の乗馬クラブから名工大に通学していることが多かった。更に、家庭教師など各種のアルバイトも行っていたため、勉学に関しては不十分で、やっと進学、卒業できた。4年生になり、卒論は竹上研究室に入り単相直巻電動機に関する研究を行った。また、就職後のことを考え、都合つく限り愛知県立図書館に行き、電磁気学等を基礎から勉強し直した。

当時世の中の景気が比較的良かったこともあり、就職状況に恵まれ、左程苦勞せずに藤倉電線株式会社（現在 株式会社フジクラ、以下フジクラと記載）からの内示を頂いた。

参考までに、国家公務員試験を受けたところ想定以上の良い成績順位で受かり、どちらを選択しようかと非常に迷ったが、国家公務員は学閥が大きく左右すると聞き、民間のフジクラを選択し1965年（昭和40年）に入社した。

3. 電力ケーブルの設計業務

フジクラでは短期間の新入社員導入教育・実習後技術部門に配属になり、油浸紙絶縁電力ケーブルの設計業務に従事してきた。電力ケーブルの絶縁材料として一般にゴム・プラスチック及び油浸紙が使用されていた。当時のゴム・プラスチック絶縁電力ケーブルは比較的低電圧ケーブルに広く使用され、油浸紙絶縁体は低電圧から超高压までの電力ケーブルに幅広く使用されていた。特に、66kV級以上の電力ケーブルに対しては、絶縁体部に低粘度絶縁油を充填・加圧して絶縁体内部での放電を防いでいた。この油浸紙絶縁タイプの電力ケーブル、即ち油入りケーブル（OFケーブル）が最も信頼性が高く、超高压まで広く使用されていた。米国では油浸紙絶縁パイプタイプケーブル（POFケーブル）が超高压送電線路に広く使用されていた。

入社した当時は人手不足気味で、多忙を極めた。配属後直ぐに、業務担当範囲などが割り当てられ、いろいろ実務勉強をしながら各種の技術打ち合わせなどに対応してきた。このような事情から、1年間位は電力ケーブル関係の各種専門用語等の知識・理解等がまだ不十分であったため、毎日非常に苦勞した。

1974年にフジクラとして初めての500kVOFケーブルをある電力会社の火力発電所に納入した。この500kVOFケーブルの設計にも関与し、電力会社の火力部門の関係者と接触して、送電部門の関係者とは全く違った考え方・対応等が必要になり、大変良い勉強になった。

最近、ケーブル製造技術が飛躍的に向上したことに伴い、架橋ポリエチレンケーブル（通称CVケーブルと呼んでいる）の信頼性が著しく

向上し、このタイプの電力ケーブルが500kV級超高圧まで適用されるようになった。特に、このタイプのケーブルには絶縁油が使用されないため、保守管理面でOFケーブル等より非常に有利であり、現在ではこのCVケーブルが地中送電線路の主流になっている。

4. 電力ケーブルの布設工事設計・施工管理及び現場試験対応業務

電力ケーブルの技術部門に約13年間従事した後、電力ケーブルの布設工事部門に移り、電力ケーブルの布設工事設計、布設工事管理及び現場試験関係等の業務に従事してきた。当時は全ての超高圧電力ケーブルに対して、ケーブル線路設計から始まり、製造、工場検査、運搬、現場布設・据付及び現場試験まで全て基本的にケーブルメーカーの責任で対応していた。1979年頃から各電力会社では275kV級等の超高圧ケーブルを地下のケーブル専用洞道内に布設するケースが非常に多くなった。しかし、安全面等から従来のウインチ引きによる長尺電力ケーブルの布設工法が問題になった。更に、送電容量の増大に伴いケーブルの導体サイズも従来の200mm²～800mm²位から1000mm²～3000mm²クラスの大導体になり、ケーブル重量及び可とう性等の点から引き入れ時の信頼性、効率性及び安全面で優れた布設工法の開発を各電力会社から要求されてきた。このため、モーターローラー引き入れ工法などを開発し、各電力会社からも高く評価された。このような布設工法の開発・適用により東京都内は勿論、名古屋市内のケーブル専用地下洞道内にも多量の長尺275kVケーブル等が布設された。勿論大阪、福岡等の大都市の地下洞道内にも長尺の超高圧ケーブルが多量に布設された。

5. 海底電力ケーブルの布設業務

海峡横断または本土－離島間等の海底部に布設された電力ケーブルを通常海底ケーブルと呼

んでいる。このような場所では一般の陸上ケーブルと全く異なって、布設時及び布設後に予期せぬ外力がケーブルに加わってくるため、構造的に非常に強固な設計がケーブルに要求されている。この対応として通常6mm径以上の亜鉛メッキ鉄線をケーブル周囲に長ピッチで巻きつけて補強した構造にしている（電気設備技術基準で規定）。

一方、海底ケーブルの布設工事は自然を相手にした作業になるため、海象、気象、地質、潜水、流体力学、土木工学、船舶工学などの幅広い知識が必要であり、更に各工事現場の天候、海象等にマッチした最適な布設工法が要求され、対応してきた。しかし、多くの海底ケーブルプロジェクトでは想定外のいろいろの問題が発生したため、非常に苦勞し、想像を絶する難工事も経験してきた。

沢山の海底ケーブルの設計・布設工事に関与してきたが、その中で特に強く印象に残った次の2件名について簡単に紹介する。

1) 津軽海峡横断北本DC±250kV海底OFケーブルプロジェクト

本州と九州間、本州と四国間の電力連系は海峡を横断する送電線で行われていたが、北海道のみ津軽海峡に阻まれ、本州との電力連系は行われていなかった。1971年に連系計画が決まり、電源開発株式会社（現在J-POWERと呼ばれている）を中心に検討し、DC±250kV海底ケーブルによる津軽海峡横断電力連系線路の建設が確定した。詳細な海底調査の結果、海底ケーブルはルート長約43km、最大水深300mというルートが選定された。初期連系時にDC250kV海底OFケーブル1条及び中性線22kV級海底XLPEケーブル1条布設し、1978年に竣工した。この時の連系送電容量は300MW/250kVであった。1992年にDC250kV光ファイバ複合海底OFケーブル1条増設に着手し、1993年竣工した。この結果、総連系送電容量は600MW/±250kV

この連系送電線路の建設はJ-POWERの管理の下に4社JV（古河電工・住友電工・日立電線・フジクラ）で対応した。

2) 紀伊水道横断/阿南紀北直流幹線DC
±500kV海底OFケーブルプロジェクト

このプロジェクトは図1に示すように徳島県の橋湾火力発電所からの大電力送電するために、阿南変換所から和歌山県の由良開閉所までの長さ48.9km（陸上部2.4km、海底部46.5km）に光ファイバ複合DC±500kV 1 x 3,000mm²海底OFケーブル4本を布設するという世界最大規模（送電容量2,800MW/DC±500kV昇圧時）のものであり、国内は勿論世界的にも大変注目されていた。

特に、海底ケーブルのルート全長46.5kmに亘って、図2に示すような外径190mm重量100kg/m（気中）の超大型海底ケーブル4条を短期間に決められた位置に正確に布設し、同時に船舶のアンカー・漁具などによる外傷を受けないように海底に2～3mの深さに同時に埋設する事が要求された。このため、1992年頃から共同開発研究を行い、特別な海底岩盤掘削機・ケーブル埋設機などを開発し、更にイタリアか

ら世界に2隻しかない特別な海底ケーブル布設専用船1隻を長期間傭船して行った。1998年に計画通り無事海底ケーブル4条を正確に予定ルートに布設・埋設し、陸上ケーブル部も含めた全ケーブル線路部が2000年に無事布設完了した。このケーブル線路部の耐電圧試験に無事パスしたときは言葉で表せないホットした気持ちでした。なお、このプロジェクトには中村良晴氏(1991年名工大E卒フジクラ入社)にも参加して頂き、この巨大500kV海底OFケーブルの

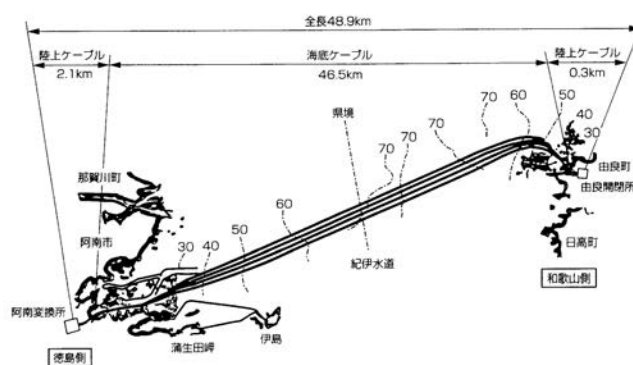


図1. 阿南紀北連系DC500kV
海底ケーブルのルート概要



図2. DC500kV海底ケーブル
(外径：約190mm、重量：100kg/m)



図3. 橘湾火力発電所建設現場を背景にした
布設台船上での筆者

設計などに従事して頂いた。

このプロジェクトは関西電力・電源開発ならびに阿南紀北直流幹線建設共同企業体（住友電工、古河電工、日立電線、フジクラ）間で推進された。

6. 海外出張

1965年4月にフジクラに入社し、2002年9月に定年退職するまでに、北米、中南米、東南アジア、中近東、欧州などに合計丁度50回海外出張した。

最初の海外出張は1973年（昭和48年）4月から1974年5月までの約1年1ヶ月間のアメリカ出張であった。この出張先はNY州マンハッタンから約60km離れたロングアイランドにある従業員約70名弱の小さな会社であるが、この会社はPOFケーブル等の給油装置関係に対して高い技術力を持っていた。この会社とフジクラは1967年に技術提携し、フジクラからエンジニア1名を1年交代で派遣する事になり、幸運にも1973年4月から1年間出張することになった。この初めての海外出張期間中にオイルショックに遭遇するなど非常に貴重ないろいろな経験を積む事が出来た。

なお、この出張時に武藤名工大元学長（当時教授）と名大の堀井教授が学会の関係でニューヨーク州に来られた。このときに数日間同行させて頂き、GEのUHV試験設備及びDetroit Edison Co.等を訪問した。このときの週末に、ナイヤガラ滝及びこの滝から約10km下流にある1964年に建設された水力発電所Robert Moses Water Power Plantを見学した。我々のために、テープレコーダによる日本語での詳細な説明をしてくれた。基本的にこの河川の全体水量の約3分の1を滝に流し、残りの約3分の2をアメリカとカナダで約半分ずつ水力発電に使用し、各約250万kW発電していると説明されていた。エリー湖から約10kmに亘って巨大な導水トンネル（高さ20m、幅12m）2本を作り、約750ha（約230万坪）の巨大貯水湖を作って発

電しているスケールの大きさに非常に驚いた。1965年11月9日にこの系統の小さな事故がきっかけにNYが大停電になっている。



図4. Robert Moses 水力発電所を背景にして
右側：武藤名工大元学長、左側：筆者

7. あとがき

フジクラを2002年9月に定年退職した。このときにフジクラ在職時の実務経験から電気主任技術者の資格が取れることが分かり、関東経済産業局と折衝し、名工大から卒業証明書及び取得科目証明書を発行して頂き、平成2003年5月12日付けで第1種電気主任技術者免状を頂いた。この資格を基に電気管理技術者としての業務も考えられたが、ある電力会社からの依頼で現在海外向けの電力ケーブルに関するコンサルタント業務を行っている。

約40年間に亘って対応してきた電力ケーブル関係の業務を振り返って見て、反省点は多々有るが、自分なりに満足したエンジニアとしての活動を送ることができ、御支援頂いた関係方々に深く感謝している。

参考文献：

- 1) 電源開発株式会社 北本連系線増設光複合単心海底OFケーブルの実用化、フジクラ技報、第85号
- 2) 紀伊水道横断DC±500kV海底OFケーブル、フジクラ技報、第98号
- 3) 紀伊水道を横切る電力ケーブル～海底布設を2日でこなす新鋭装置～、電学誌、118巻7/8号、1998年

交流コーナー

寒鰯を食する会顛末記

下方 洋 (W35)

暮れのある日、御器所が丘時代の級友M君から久し振りの便りが届いた。数十年前に家業を継ぐべく心ならずも当地を去った彼は、もうすっかり高岡市商工会議所の名士に変身しているようだった。

八友会各位 世話人 村本勝夫
今朝初雪がありました。師走に入り益々冬らしくなっています。古城公園の紅葉も終わりです。氷見では連日ブリ(鰯)が獲れています—(中略)—久し振りに再会できますことを楽しみにしています。

定刻通り名古屋を発車した列車は米原を目指してひた走る。自由席は空席が目立ち車内は閑散としていた。しばらくすると右手に伊吹山が現れる。雪が少ないせいか、荒々しいシルエットはそれなりに美しい。米原での車両方向転換操作は意外に簡単迅速に行われ、列車は直ちに北陸路を疾走し始める。敦賀に近かずくと積雪はその量を増し始め、加賀温泉を過ぎ小松にさしかかると、突然右手に霊峰白山がその勇姿を現し、銀色に輝きながら列車を追走するがの如く望見される。私の旅心は昂揚し解放感に満たされてゆく。金沢を発車すると列車はまもなく目的地のプラットホームに滑り込む。高岡駅南口に総勢8名が顔を揃え、宿のご主人の運転するバスに乗り込む。予報どおり県内は高気圧に覆われ、すっきり晴れ渡る。2月中旬から3月上旬並みの暖かさだ。バスは氷見ICに通じる能越自動車道に進入し所々に残雪を留める山肌を縫うように北上する。右折してさらに走行すると、突然海越しに展開する立山連峰の大パノラマが出現する。高岡市が世界に誇る絶景である。これほどの夕映えは地元でも希有のことだという。

味ん宿「灘浦荘」は富山湾に面した絶好のビューポイントに立地していた。私達には3階の大部屋が用意され、そこからは連山が一層間近に望むことができた。山々はその稜線にかすかなピンク色の部分のみを残して次第に夜のとばりに包まれてゆき、ネイビーブルーの海面には、イカ釣り舟から発せられるいざり火が点滅を繰り返していた。

熱い湯に浸かり旅の疲れを癒している間に宴席が用意され、着座されるよう促される。水揚げされたばかりの海の幸が所狭しと並べられる。刺身の大舟盛、ブリの豆乳しゃぶしゃぶ、ブリ大根、アンコウ鍋、

カレイの空揚げ等々。お好みに応じて料理に相性の良さそうな飲み物が注文され、手際良く運び込まれる。宴は幹事スピーチ、乾杯、近況報告等と和やかな雰囲気の中に進行する。記念写真撮影が終わると一時席が乱れたが、盃の交換と大談合の熱気は途切れることはなかった。

翌朝目が覚めると辺りはまだ薄暗く、日の出の時刻を迎えようとしていた。窓辺に広がる富山湾上には、立山連峰が冷気を裂くように屹立し、背景の空が朝焼けに染まり始める。

突然ダイヤモンドリングが、劔岳頂上付近でむしろ白に近い強烈な光を発した。それは瞬間のできごとであった。

朝食後バスに乗車して氷見海鮮館に向かう。そこでは網元から直送されたトキトキの魚貝類が勢揃いし、客の注文に応じてくれる。スケジュール上15分の滞留しか許されなかったが、巧みな客捌きで手際よく買物を済ませ予定通り出発することができた。

加賀二代藩主前田利長公の菩提寺国宝瑞龍寺は今日の観光のハイライトであろう。お目当ては信長公の石廟(分骨廟)である。公・四女永姫(後の玉泉院)の嫁ぎ先利長公、利家公、正覚院(信長公室)、織田信忠(信長の長男で本能寺の変に二条城で自刃)と共に宝篋院塔に祀られている。雪つりと庭園で有名な大野屋での昼食はもう一つの楽しみである。ここでは自慢の九谷焼で料理がもてなされるという。

いつの間にか立山連峰は、その勇姿を、朝もやのなごりの中に溶け込ませ、その厳しさは失われていた。今日の天候は引き続き高気圧に覆われるが、次第に気圧の谷が近づくため夕方から曇りとなる見込み、と伝える富山地方気象台の予報は正確であった。



クラブ紹介

No.12 今年こそ1部昇格！

アメリカンフットボール部主将 上嶋宏明
(電気電子工学科3年)

僕たちアメフト部は3年12人、2年6人、1年生11人の29人で活動しています。内訳は部員22人、マネージャー6人、AS（アナライジングスタッフ）1人です。ASは相手チームを分析し、攻め方、守り方を考えていく人のことです。秋の最終戦を終え、4年生は引退し、新チームで活動中です。

現在、僕たちは2部リーグに所属していて、1部リーグ昇格を目標に練習しています。リーグ構成は1部のチームが6校、2部はAとB二つのブロックに分かれており、両ブロックとも5校あります。入れ替え戦で2部の各ブロック優勝校がそれぞれ1部5、6位のどちらかと対戦し、2部のチームが勝てば、1部の負けたチームと入れ替わり一部昇格となります。

今シーズンはリーグ内全体のチームの力が拮抗していたのか、最終戦の結果では5チーム全てが2勝2敗となり全チーム入れ替え戦の可能性がある激戦区でしたが、結果は1勝3敗の4位に終わりました。負けた試合はいずれも接戦でありましたがミスも多く、チームとしては後一押しが足りないシーズンとなってしまいました。

年間のスケジュールは12月から2月終わりまではオフの期間であり、各自筋トレなどのトレーニングを行います。3月からチーム全体で活動を再開し、5月の新チームにとって初戦となるOB戦に向けて練習します。OB戦までの練習は基礎的な練習が中心ですが、試合になれるため社会人のチームと実戦形式の練習を行ったりします。その後、春のオープン戦を何試合か行い、7月第3週あたりからテスト週間のためオフとなります。8月から再び練習を行い、お盆の時期には長野のほうに1週間ほど合宿を行い、試合に向けてチームを完成に近づけます。合宿が終わると、秋のシーズンへ向け最終調整を行い、初戦を迎えます。

シーズン中は週5日で練習を行い、練習後、週3日は筋トレを行っています。

やはり部活と学業の両立は他の学生と比べると難しいですが、時間を上手く使うことで、学業のほうにもみんな精を出してがんばっています。また、部員のほとんどがアルバイトを行ったり、オフには部員で旅行へ行ったりもして充実した生活をおくっています。

現在、うちのチームは他のチームと比べると部員数が少なく、アメリカンフットボールは人数が多ければそれだけ有利になり、また活気もでるので勧誘にはどの部活よりも力を入れて頑張っています。勧誘ではアメフトの魅力について語り、簡単な練習に参加してもらったり、食事に行ったりイベントなども行っています。

僕たちのチームは監督やコーチもいますが学生主体で行っているチームであり、チームとして分からないことも多く、OBの方々に練習を見てもらって、何かアドバイスなどがもらえれば必ずチームのプラスになると思いますので一度練習のほうへ見学に来てもらえれば幸いです。

アメフトは一見つらいだけのスポーツかもしれませんが、一人一人が考え、アメフトというスポーツを理解していないと意味がないです。まさに頭脳のパワーが一体となったスポーツと言えるでしょう！



2008年11月2日 最終戦

クラブ紹介

No.13 剣道部とOB会

剣道部 師範 酒井武信（Y56）

剣道部と剣道部OB会の最近の活動状況を紹介させていただきます。私は、平成20年度より剣道部の師範を仰せつかっています。前師範の水谷徳正先生（八段）には25年の長きにわたりご指導いただきましたが、84歳とご高齢であり、水谷先生、剣道部OB会および剣道部からの推挙により、師範を引き継ぐことになりました。剣道部顧問には、河辺伸二教授（建築・デザイン工学科）、剣道部監督には平尾正典君（B63）をお願いしています。

さて、剣道部の活動は、溝口航主将（情報工学科3年）を中心に、学部2～4年生15名に加えて、1年生6名が入部しました。この2年間は部員数が減少傾向でしたので、研究の合間に、指導と自身のリフレッシュのために大学院生5名が交替で稽古に参加して盛り上げる工夫をしてくれています。6月の東海国立大戦、8月の六工大戦での優勝を目標にしています。その成果の一端として、平成20年8月に九州工業大学で開催された六工大戦で、個人戦において男女とも二位（前川隆洋：機械工学科四年、佐藤友香：生命物質工学科四年）と健闘し、皆で喜びを分かち合いました。

剣道部のモットーは「自主自立と部員の協調」です。体育大学の剣道部とは異なり、名工大生は将来社会に出て剣道を専門に行うわけではなく、仕事の合間を見つけて剣道が続けることになるので、少ない稽古時間（火、木、土各2時間）の中で最大の効果を出せるように心がけています。したがって、他の予定との都合を調整して稽古に参加する姿勢や、剣道部の運営を自ら行う事などは、まさに社会へ出てから必要なことであり、剣道部の活動を通じてその練習をしているものだと思います。

一方、OB会はしばらくの間下火でしたが、

この4～5年は組織立った活動へと再出発しました。その理由は、学生の最高位は四段ですが卒業後も剣道が続けて、六段・七段を目指すOBが増えてきたことや、剣道部のバックアップのため、さらにOB同士や学生との交流の大切な機会とするためです。数年前から名簿の整備、OB総会・懇親会、合同稽古会を企画し定着してきました。OB会活動には世話役として前田敏雄先輩（F46）にご尽力をいただいております。

その活動の中で、毎月第3土曜日（10～12時）をOB稽古会として、OBと剣道部員とがそれぞれの目標に向けて剣道の研究のために剣を交えています。各OBは、普段は会社での実業団チームのメンバーとして、また町の道場で子供たちの指導をしていますが、自らの昇段を目指して毎回10名程度の参加者があり、OB稽古会が定着しつつあります。私自身にも毎回テーマを課して、剣道の目指すところとその身につけ方の解説をする試みを始めました。

以上のように剣道部とOB会は、剣道上達という目標に向けて稽古を行うとともに、大学や実社会の状況についての情報交換を行えるシナジー効果が期待できる良い機会となっています。



平成21年4月 OB稽古会

情 報

ネットワーク

名古屋工業会尾張支部総会報告

今回の総会は、例年より桜の花が長続きしたお陰で満開の中、平成21年4月11日（土）に、稲沢市民会館小ホールで盛大に開催できました。

当日は来賓として、本部理事長・篠田陽史様（M33）をお迎えし、会員の参加者は50名でした。

第1部は支部総会。玉田支部長挨拶に続いて、篠田理事長に来賓挨拶をお願いしました。その挨拶の中で、3月23日の学位授与式で学生に①大学に対するアイデンティティー（帰属意識）を持って欲しい、②辛抱せよ（入社後の心得）など話された内容を紹介していただきました。次いで、平成20年度事業報告、同会計報告、同会計監査報告、平成21年度事業計画（案）の説明を行い、承認を得ました。

第2部は特別講演。昨年のアンコールで有MACメディカルアソシエイトカンパニー・代表取締役&薬学博士・後藤義明殿が『不況下で知恵を活かした健康管理への挑戦』と題して、健康に関する豆知識、健康養生訓※（少肉多菜、少糖多果、少衣多浴、少欲多施、少憤多笑、少塩多酢、少食多嚼、少憂多眠、少言多行、少車多歩）、簡単な運動⇒体力アップ（自己管理による健康美学）、前立腺肥大症の主な症状、便通異常（便秘、しぶり腹）、ごまかされるな！



サブリ（1日100円、3,000～5,000円/月が目安、1週間分で様子を見る。掛かり付けの薬剤師を持つことも大切）など有益なお話をしていただきました。

第3部はミニコンサート。ソプラノ・村瀬啓子さん（D53村瀬由明氏の奥様）、フルート・上田花奈さん、ピアノ・石山英明氏で楽しみました。

第4部は記念撮影。特別講演の講師、ミニコンサート出演者にも入っていただいていたのスナップです。



第5部は懇親会。佐藤和夫様（E22）に乾杯の音頭をお願いし、講師・コンサート出演者も参加、立食パーティーで歓談していただきました。参加者には1分間の自由スピーチをしていただき好評でした。中締めは魚住養正様（W22）をお願いし、閉会しました。今回も楽しい総会を開催することができました。

尾張支部長 玉田欽也（W32）記

※養生訓10条は、名古屋市内の居酒屋さんで見掛けたもので、的を射た内容に感心したとのことで紹介していただきました。

記：尾張支部長 玉田欽也（W32）

東京支部「東京棋友会」平成21年度総会・春の大会報告と会員の募集

さる4月25日、平成21年度の総会および春の大会が開催され、平成20年度の活動報告・会計報告の後、平成21年度の活動計画が下記のごとく承認されました。

＜平成21年度事業計画＞

1. 例会は原則として「全土曜日・八重洲倶楽部」にて開催（但し正月・休日は休み）
 2. ただし、奇数月の第4土曜日は「東京囲碁将棋サロン」で開催する
 3. 総会・大会・新年連碁会などは飲食可能な「サロン」で行う
 4. 九州工業大学OB対抗戦は「5/30名工大幹事、サロン」、「10/24九工大幹事、鳳龍会館」の予定
 5. 囲碁旅行会は「9月中旬 熱海又は伊東の囲碁が打てる旅館」で行う。
 6. 会費は年間7,000円で賞金、コーヒーなどの飲食費、サロンの席料その他に充てる。
- 又総会に先立ち春の大会（出席者13名）が開催され、上位3名が入賞（優勝：A40東）。20年度上期の成績優秀者8名（優勝：D39渡辺）とあわせて表彰されました。

このように東京棋友会は名古屋工業会傘下のもと九工大交流会など大変活発な活動を進めておりますが、意外な事に東京に囲碁の会があることを大半の方がご存じないようです。これまでも「ごきそ」などで案内してきましたが不十分なものでした。改めてご案内をさせていただきます。

東京棋友会には中野文一会長（A18）以下23名の会員がいて、毎週土曜日に東京駅地下街の八重洲倶楽部の倶楽室に集まり碁を打っています。会員の棋力は330点（8段格）を筆頭に大半は有段者ですが級位者も数名いて、多彩な対局になっています。なお、「八重洲倶楽部」は名工会東京支部が年間使用契約をしていますから卒業生はどなたでも気楽に使用できます。

例会は任意の集まりで、一局ごとに持ち点（基準点：250点＝3段格）を増減させながら13時～18時頃まで棋力の向上と親睦を計っています。毎回笑い声の絶えない気さくな例会を楽しんでいますが、ここ数年来高齢化に伴う会員の

減少に苦慮しています。大会を含め全ての会の出席者は一回当たり4～18名くらい。平均では7名です。

10年前に私が入会した時には36名の会員がいたのですが、現在は23名まで減少しました。この間新規入会者は1名のみで、このままでは会の存続が危ぶまれます。会員募集の努力が不足していたいままでを反省すると共に以下に新規会員の勧誘をさせていただきます。

＜ご案内とお願い＞

東京地区で囲碁の打てる人を大募集します。これまで引っ込み思案で敷居の高かった方々をはじめ東京棋友会をご存じなかった方々は是非下記幹事までご一報下さい。一緒に楽しい時間を過ごしましょう。

囲碁はボケ防止に最良と言われ、筆者のマンションでも最近囲碁倶楽部が発足しました。毎週木曜日にキテレッツな囲碁（正目＋白コミ20など）を楽しんでいます。

東京棋友会は誰もが集まりやすい東京駅を会場としていますので是非下記幹事までご一報下さい。

1. D35 藤村広一：047-326-1778
k-fujimura@pcid.mfnet.ne.jp
2. C38 福間敏夫：0297-73-6835
toride1145@yahoo.co.jp
3. C38 谷口 駿：044-987-1090
pwd8m222de@mg.point.ne.jp
4. A40 東 英樹：03-3534-8628
mh0862@sd.dcn.ne.jp

記：東 英樹（A40）



写真は春の大会 前列左から3番目が中野会長（A18）

D40「第10回記念クラス会」の報告

卒業後43年余りが経ちましたが、1977年秋に竜ヶ池畔の名古屋工業会館で第1回クラス会を行って以来10回目となるのを記念して、大槻君の提案で、今回は従来の倍の30名の参加者を集めようという目標を掲げました。

7名の幹事により、11月9～10日に名鉄犬山ホテルで開催しましたところ、47名の級友の約半数の23名（宿泊21名、日帰り2名）の出席を得て盛大に行うことができました。卒業以来はじめて出席の人が5名もありました。

この日のために、横地君が2年前から「D40 電腦クラス会」というメーリングリストを立ち上げてくれたので、常日頃互いに近況報告や音信不通者の消息を知らせ合い、その数300回余りの通信ができ、クラス会開催前から大いに盛り上げることができました（37名がMAILアドレスを持っています）。

当日は、オプション「変貌を遂げた母校と名古屋の町を見る会」を設け、正午に母校の正門に集合し、大きく変わった母校を見学しました。名駅のツインタワーやミッドランドスクエアを見物後、名鉄犬山ホテルへ駆けつけました。

ホテルには15時半に集合し、まず皆で温泉にゆっくりつかった後、17時から宴会を始めました。各自の近況報告の際、横地君が液晶プロジェクターを持参して、お得意のプレゼンテーションで若き学生の時と最近の姿を映写し、お互いにからかうことしきりでした。一次会だけでは話が納まらず、ホテルのスナック「あすなろ」の二次会でも積もる昔話の花が咲いていました。それでも話し足らず、また一部屋に集り三次会まで行い、よく飲み午前様になるまで話が尽きることがありませんでした。

翌日はホテル玄関前で国宝犬山城をバックに記念撮影し、犬山城を見学した後、2年後の再会を約して散会しました。 記：鈴木靖昭(D40)



双友会東京支部報告

双友会東京支部は5月13日（水）、眼下に皇居を望むK K R ホテル東京11階 松の間で第16回懇親会を開催しました。今回は双友会会長市橋洋志氏をはじめ初参加の早川吉郎氏、斉藤隆光氏、田村広志氏そしていつもの顔ぶれが揃い、下記の13名が集いました。

定刻、山田實支部長の開会の挨拶につづき、乾杯で開宴となりました。幻の詩人サムエル・ウルマンの「青春とは人生のある期間ではなく、心の持ちかたを言う。〈中略〉年を重ねただけでは人は老いない。理想を失うとき初めて老いる」の紹介から始まり、ワイングラスを傾けながら初参加者の自己紹介や近況報告などがあり、歓談は佳境に入りました。

市橋会長から会員増強と財政基盤の強化そして大学との連携充実を図るべく努めるので、会員各位の一層のご協力をお願いしたいとのご挨拶をいただきました。次いで長島徹氏は今春、母校の入学式後の企業トップセミナーで「新しい時代を迎えて、日本の将来を担う技術者に」と題して講演、終了後に学長から名誉博士号を授与されたとのことでした。

予定の2時間半は瞬く間に過ぎ、早川吉郎氏の閉会の挨拶でお開き、今秋に名工会東京支部総会で再会することを約し散会しました。

（出席者）

山田 實 (23)、早川吉郎 (23)、飯田秀郎 (33)、佐藤 誠 (33)
森川 勲 (34)、倉島俊二 (38)、中村 勤 (38)、高瀬達也 (38)
市橋洋志 (40)、斉藤隆光 (40)、田村広志 (40)、長島 徹 (40)
印藤 嶺 (43)

記：佐藤 誠 (W33)



半世紀ぶりの再会に酔う(D35クラス会)

久振り（前回愛知万博以来）にクラス会をしようということになった。3月26、27日に京都嵐山に集合した。なんと集まったのは30人の多勢。関東から11人、中部から7人、西日本から12人。参加率8割超。やっと仕事から解放されて出席できたと卒業して半世紀ぶりに会った者も何人かいた。それはまるで“浦島太郎さん”状態だ。そんなこともあろうと名札を用意した。名札を見てから顔をじっとみていると、あの血気盛んな学生時代の美男子？の面影があぶり絵のように湧いてきた。（写真参照）

いろいろな職場で活躍して、古希を越えた戦士の話はさばさばとして面白く尽きない。統計的に70歳の峠を越えた者は約半数弱が80歳を迎えるというが、どうやら病気の話もちらほら。工業会で常務理事としてご苦勞をお願いしていた西端君と、春山、吉田君が他界しているのは

誠に残念で、天国に召された学友たちに黙祷を捧げた。

京都嵐山での半世紀ぶりの再会では“やあやあ元気か、何してる”から始まった話は尽きず、来年の50周年記念での再開を約した。翌日は嵯峨野巡り班、京都の寺社古刹めぐり班などに三々五々に分かれて帰路についた。

記：中道春樹（D35）



学内ニュース

ボランティア表彰の受賞

名古屋工業大学では、従来から学生の地域貢献への指導にも力を入れており、特に御器所キャンパス周辺の自主的な清掃活動はほぼ毎月開催されている。このたび、財団法人学生センターから、工大祭実行委員会を中心とする学生有志（総称：名工大クリーン連合）は、鶴舞公園、鶴舞駅、名大病院、花田公園、吹上インター周辺の公共スペースを定期的に清掃することで環境美化に大きく貢献していると高く評価され、全国表彰を受けました。去る1月30日（金）に京都で開催された表彰式には学生課長が出席し、表彰状と副賞10万円の贈呈を受けました。今後の活動の広がりが期待されます。（事務局）



報 告

大 西 信 明	M13	H 18. 11.	山 田 豊	E 25	H 18. 11. 28	竹 川 重 治	A 10
田 中 真 平	Y 23	H 20. 11. 2	山 脇 光 夫	D 20	H 21. 1. 22	石 坂 龍 男	M 12 H 20.
原 久 雄	W 16		夏 目 隆 二	M 5	H 19. 10. 27	豊 田 高 和	K 51 H 20. 12.
橘 努	M 18	H 20. 1. 24	斉 藤 長	C 26		神 谷 純 三	C 21 H 21. 1. 20
中 西 成 城	C 11	H 20. 3. 26	渡辺(提督)明生	E 40	H 21. 1. 9	森 健 治	Mb⑤ H 20. 12. 22
前 田 松 夫	W 22	H 20. 5. 26	岡 本 正一郎	M 22	H 20. 2. 27	森 正 隆	M 16 H 21. 1. 30
長 野 俊 男	A 18	H 20.	西 田 五 郎	D 12	H 21. 4. 1	神 野 幸 城	C 19 H 21. 1. 15
風 間 壮一郎	A 20	H 20.	橋 本 坦	㊦22	H 21. 4. 16	堀 江 達 郎	E 23 H 20. 9.
西島 ひろゆき	E 13	H 20. 8. 31	水 谷 純 一	M 40	H 20. 9. 23	棚 橋 喬 造	C 23 H 20. 8. 15
新 野 武	A 12	H 19. 7. 24	木 村 太 久	E 39		伊 藤 常次郎	C 14 H 20. 5. 3
雪 本 光 紘	M 41	H 20. 9.	中 村 明 人	F 41	H 20. 11. 2	木 全 勲	M 9 H 21. 4. 19
伊 藤 薫	C 18	H 16.	竹 田 恭 平	W 16		岩 田 忠兵衛	C 19 H 21. 1. 30
由 井 好 彦	C 20	H 15. 7. 5	山 本 藤 吉	M 6	H 19. 12.	服 部 信 男	E 20 H 20. 12. 15
菊 田 圭 二	A 16	H 20. 5. 1	倉 地 和 夫	M 20	H 20. 9. 19	石 樽 了 介	C 20 H 20. 4. 6
星 野 忠 美	E 29	H 18. 4. 11	今 村 弘	E 27	H 20. 10. 19	水 野 力	M 16 H 21. 2. 17
坂 野 昭 夫	E 23	H 20. 6. 20	栗 野 進	A 17	H 19.	高 見 一 吉	W 10 H 21. 5. 2
岡 悌 雄	M 16	H 20.	石 川 雄 治	A 20	H 20.	小和田 博	M 三
塚 本 善 夫	A 21	H 19. 1. 13	長 縄 信 彦	E 30	H 20. 11. 1	中 村 隆 一	㊦22 H 21. 5. 27
打 田 由之助	C 10	H 18. 1. 11	近 藤 温 育	E 13	H 20. 12. 10	山 田 幾 穂	D 25 H 21. 5. 25
志 村 洋	M 16	H 21. 1. 18	村 松 渡	W 47	H 18. 3. 15	田 中 土 次	E 39
上 杉 元 紀	D 14	H 21. 1. 17	高 橋 正 清	W 39	H 21. 1. 5		
小 池 鐸 治	M 26	H 20. 6. 22	石 津 豊	M 14	H 20. 8. 2		

謹んで哀悼の意を表します。

編集後記

今回の「ごきそ」は第43回通常総会の報告を中心に記事を組みました。特別講演をいただいたトヨタ自動車横山氏にも原稿をいただきましたので、総会にご出席いただけなかった方も楽しんでいただければと思います。「ごきそ」もこれで、北村委員長のもと、現在の広報委員会になりましてちょうど1年となったこととなります。あわただしく企画・編集をおこなってまいりましたが、もう一度ネジを巻きなおして、次の1年間も「ごきそ」が会員諸氏の交流の場として、また、大学と工業会の情報交換の場

として役割を果たせるよう努めてまいります。会員皆様にも是非、誌面へのご意見、ご投稿をお待ちしております。

クラブ紹介を連載してきておりますが、今号では剣道部OBからの記事を掲載することができました。どうしても在校生を中心に記事をお願いすることになりますが、是非クラブOBからの記事も是非、投稿いただければと思います。学生時代のクラブ生活を振り返る記事などもお待ちしております。

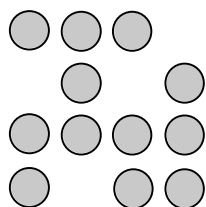
(犬塚)

(お詫び) ごきそ429号36ページに掲載しました記事「ボランティア表彰の受賞」の写真に誤りがありましたので、今号31ページに再掲いたしました。

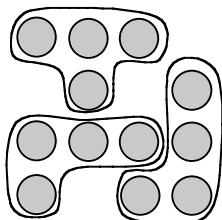
ごきそでパズル

今回のパズルは「フォアボール」です。
ボールをタテヨコでとなり合う4つづつのか
たまりに分けてください。

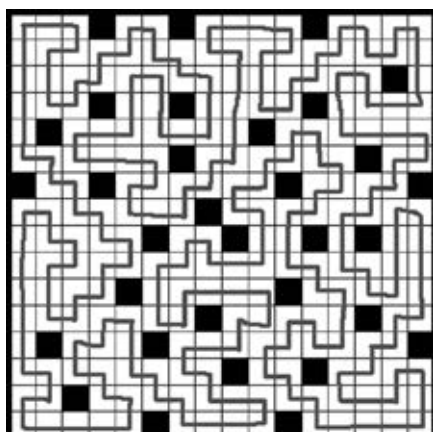
(例題)



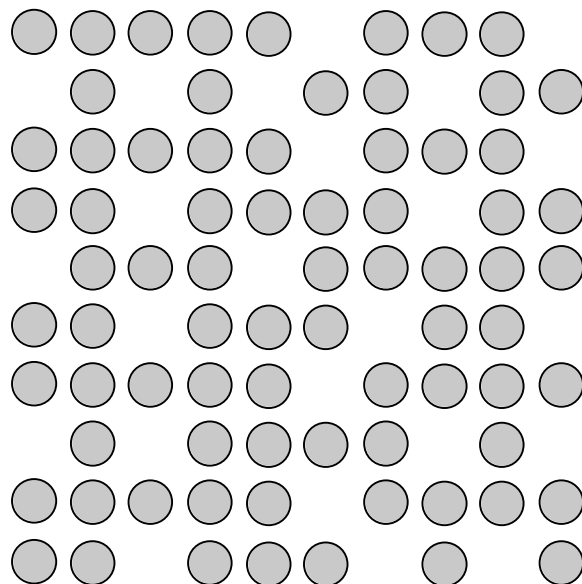
(答え)



(前回の答え)

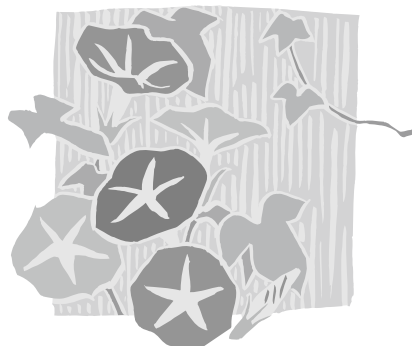


問題 4つづつのボールに分けてください。



解答は次号に掲載します。

パズル：稲葉直貴 (EJ13) 作



会誌「ごきそ」のバックナンバーは、名古屋工業会のホームページ
<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>でご覧いただけます。

広報委員会

委員長

北村 正 (Es48)

委員 [○：幹事]

○犬塚 信博 (J 62)

糸魚川文広 (M61)

横山 淳一 (Fb⑥)

森川 民雄 (W45)

○大園 忠親 (I ⑦)

小坂 卓 (EJ⑥)

山口 啓 (C 49)

若尾 尚史 (D ⑥)

森 聡

山本 勝宏 (ZW⑥)

宇佐美智伯 (SU⑥)

道家 清正 (Y 30)

秀島 栄三

本多 沢雄 (ZY⑥)

平井 稔雄 (M⑤)

飯田 雅 (K 46)

北川 啓介 (A⑧)

鶴飼 裕之 (F 52)

廣瀬 光利 (E 50)

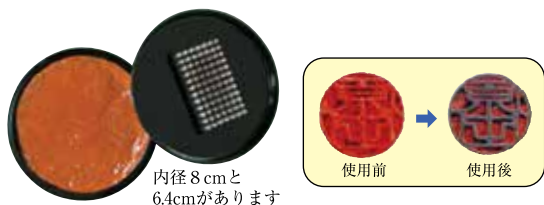
杉江 紘 (F院44)

—いつも綺麗な捺印を—

印鑑や篆刻の印面に朱肉や紙粉が詰まり、捺印しても印影が綺麗に写らない場合があります。

そんな時、この「朱おとし」をご使用ください。

印面を傷付けず汚れを取り、綺麗に捺印することができます。ゴム印のゴミでも綺麗に落とせます。



名古屋市西区名駅二丁目3番17号

名豊工業株式会社

代表取締役 原田 直輝 (D41)

電話&FAX 052-541-6919

“仕事を通じて世界に喜びと感謝の輪を広げる”

高級耐火物、黒鉛坩堝、ファインセラミックス、景観材
ニューカーボン材、環境機能材、金属マトリックス複合材

創造性を追求する

株式会社 TYK

代表取締役会長 牛 込 進 (Y33)

本社 ①00-0005 東京都千代田区丸の内1-8-2

☎ 03-3201-0821 FAX 03-3213-3566

本部 ①507-0818 岐阜県多治見市大畑町3-1

☎ 0572-22-8151 FAX 0572-22-0706

特許業務法人
英知国際特許事務所

EICHI Patent & Trademark Corp.

所長 弁理士 岩崎 孝治

— 知財の総合コンサルタント —



東京本部 〒112-0011 東京都文京区千石 4-45-13
TEL: 03-3946-0531(代) FAX: 03-3946-4340

神奈川支部 〒225-0021 神奈川県横浜市青葉区すずき野 1-4-1-103
TEL: 045-902-2004 FAX: 045-902-2004

北海道支部 〒078-8802 北海道旭川市緑が丘東二条 4-11-12
TEL: 0166-65-2080 FAX: 0166-65-2080

浜松支部 〒430-0806 静岡県浜松市中区木戸町 5-11
TEL: 053-461-5662 FAX: 053-460-6027

<http://www.eichi-patent.jp>

(株)ブライダルは
名古屋工業大学会員の皆様の
「結婚」を応援します。

31年の実績
(一橋大コースetc)



左のQRコードにて携帯サイトに
簡単にアクセスできます。
(一部対応しない機種がございます。)

名古屋工業大コース

これをご覧になったとおっしゃってください

会員サポート費 **50% OFF**

ブライダルコース ¥220,500 ▶ ¥189,000 etc.

エクセレントコース ¥378,000 ▶ ¥330,750 etc.

●ミドル・シニアの方々のプランにも特典がございます。

価格は登録料・会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

●成婚率は業界トップクラス。

●入会審査有り

●都庁・官公庁・有名大学などでメディア展開。

●お客様満足度NO.1のお世話を目指し少子化問題にも貢献。



株式会社 **ブライダル**

お問い合わせ
(月曜定休)

☎ 0120-415-412

<http://www.bridal-vip.co.jp>

名古屋本社 〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F
Network 東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

センサとレーザマーカの総合カンパニー



Sensing the Future—サンクス

取締役社長 吉村 元 (Es51)

各種FA用センサ(光電センサ・圧力センサ・近接センサ・変位センサなど)、
安全機器(セーフティライトカーテン・セーフティドアスイッチなど)、
静電気対策機器、レーザマーカ、マイクロスコープ、工業用内視鏡など

<http://sunx.jp/>

SUNX株式会社

東証一部・名証一部 上場
愛知県春日井市 電話 0568-33-7211

建設 不動産コンサルティング 調査 設計 企画



MAEDA

株式会社 前田組

代表取締役 前田 靖

〒466-0031

名古屋市昭和区紅梅町3-3 円昭ビル2F TEL052-852-2225

<http://www.enshow.com/MG/>

株式会社 円 昭

代表取締役 前田由紀夫

有限会社 円昭建築設計事務所

所 長 前田 知次



ENSHOW

〒466-0031

名古屋市昭和区紅梅町3-4-2 TEL052-841-2701

<http://www.enshow.com>